

平成27年12月遠野市議会定例会会議録（第3号）

平成27年12月8日（火曜日）

説明のため出席した者

議事日程 第3号
平成27年12月8日（火曜日）午前10時開議
第1 一般質問

市 長	本 田 敏 秋 君
副 市 長	菊 池 孝 二 君
経営企画部長兼まち・ひと・しごと 推進担当部長	菊 池 文 正 君
経営企画部まちづくり再生担当 部長兼本庁舎建設室長	飛 内 雅 之 君
経営企画部ICT・医療確保 （特命）担当部長	菊 池 永 菜 君
総務部長兼産業振興部長 兼防災危機管理課長	荻 野 優 君
健康福祉部長兼健康福祉の里所長 兼地域包括支援センター所長	古 川 憲 君
環境整備部参事地域開発 戦略推進室長	佐 藤 浩 一 君
農林畜産部長兼 六次産業推進担当部長	大 里 政 純 君
環境整備部長	仁 田 清 巳 君
遠野文化研究センター部長兼調査研究 課長兼市史編さん室長図書部長兼博物館長	小 向 孝 子 君
市民センター所長兼 宮守総合支所長	鈴 木 惣 喜 君
消 防 長	小 時 田 光 行 君
教育部長兼子育て総合支援センター所長兼 総合食育センター所長	多 田 博 子 君
教 育 長	藤 澤 俊 明 君
教育委員会委員長	中 浜 艶 子 君
代表監査委員	佐 藤 サヨ子 君
選挙管理委員長	藤 村 正 子 君
農業委員会会長	佐々木 敦 緒 君

本日の会議に付した事件
1 日程第1 一般質問（瀧本孝一、小林立栄、
浅沼幸雄議員）
2 散 会

出席議員（18名）

1 番	小 林 立 栄 君
2 番	菊 池 美 也 君
3 番	萩 野 幸 弘 君
4 番	瀧 本 孝 一 君
5 番	多 田 勉 君
6 番	菊 池 由 紀 夫 君
7 番	佐々木 大 三 郎 君
8 番	菊 池 巳 喜 男 君
9 番	照 井 文 雄 君
10 番	荒 川 栄 悦 君
11 番	菊 池 充 君
12 番	瀧 澤 征 幸 君
13 番	小 松 大 成 君
14 番	細 川 幸 男 君
15 番	浅 沼 幸 雄 君
16 番	多 田 誠 一 君
17 番	安 部 重 幸 君
18 番	新 田 勝 見 君

欠席議員
な し

事務局職員出席者
事 務 局 長 奥 瀬 好 宏 君
次 長 佐 藤 邦 昭 君
主 査 及 川 憲 司 君

午前10時00分 開議
○議長（新田勝見君） これより本日の会議を
開きます。

日程第1 一般質問
○議長（新田勝見君） これより本日の議事日
程に入ります。

日程第1、一般質問を行います。順次質問を
許します。4番瀧本孝一君。

〔4番瀧本孝一君登壇〕
○4番（瀧本孝一君） 改めまして、おはよう
ございます。2日目の質問者であります市民ク
ラブ所属の瀧本孝一です。

昨夜の遠野テレビのニュースは、去る5日に
超多忙スケジュールの中で、安倍内閣総理大臣
も出席して開催された高速横断道釜石秋田線の

宮守インターから遠野インターへの延伸開通式の様子に多くの時間を割いていましたが、質問の冒頭をおかりし、私からもお祝いを申し上げますとともに、雪景色の中、寒い中、小旗を振って沿道にお出迎え歓迎をいただいた、たくさんの市民の皆様にご苦労さまでしたとお礼を申し上げます。

また、先月30日に幽界に旅立たれました、本市にも漫画『遠野物語』や妖怪ラッピングバスなどをはじめとして、ゆかりの深い水木しげる先生の御逝去に対しまして、謹んでお悔やみを申し上げ、御冥福をお祈りいたします。

みずからの過酷な戦争体験をもとに、愛される妖怪をマンガに込めて、独特で不思議な世界を築き上げられ、遅咲きの漫画家と言われながら、妖怪ブームを世間に知らしめた御功績や本市に御縁を紡いでいただいたことに対しまして、改めて敬意と感謝を申し上げたいと思います。

さて、きょうは12月8日です。74年前の昭和16年のきょう、日本時間の午前3時19分、日本軍がハワイオアフ島真珠湾のアメリカ軍基地を奇襲攻撃し、3年6カ月に及ぶ大東亜戦争対米英戦、いわゆる太平洋戦争が勃発した始期であり、我が国の近代歴史の中で忘れてはならない日となった開戦記念日です。

今や直近の太平洋戦争でさえ、なぜ起こったかや、開戦の日も終戦の日も知らない若い世代がふえていく中で、ことしが戦後70年の節目の年でもありました。

世界各地では、いまだに紛争が続く地域があり、難民問題の深刻化、またこちらで悲惨なテロ行為による多数の死傷者が出ていることに心を痛める昨今ですが、改めて平和の尊さをかみしめ、当たり前前の生活ができることに感謝しなければならないとの思いを強く感じます。

そのような中、早いもので、ことしもあと3週間ばかりを残すだけとなりました。昨年秋、2期目の議席に着かせていただいてから1年余りが経過いたしました。この1年も内外にさまざまな出来事がありました。改めて我が身を振り返れば、果たして重い重責に答えられてい

るのかどうか自問自答の日々でもあります。

それでは、事前通告に従い、市長に2つの項目、教育長に1項目のテーマで一問一答方式にて質問をさせていただきますが、まずは最初の項目である特産品ワサビ生産のさらなる振興についてと題し、市長へ順次質問を進めてまいりたいと思います。

さて、先月27日、遠野わさび生産者協議会の皆様、市内でワサビ栽培が始まって今年で100年となることから、それを記念した祝賀会が開催されたという新聞記事が地元紙や中央紙の県内版に掲載されたのを拝読し、また遠野テレビでもその様子が放映されたニュースも拝見いたしました。この場をかりて、私からも、まことにおめでとうございませうとお祝いを申し上げ、これまでの先人の開拓精神や関係者のたゆまぬ御努力に改めて敬意と感謝の意を表するとともに、宮守町だけではなく、最近では市内各地に葉ワサビなどを含め、生産地が普及拡大していることに大きな期待をするものであります。

今回の一般質問をするに当たり、題材を考慮していた折に、偶然にも私の地元である達曽部の特産品ワサビが湧水地区で大正4年から栽培が始まって、ことしで100周年を迎え、前述した記念祝賀会の開催の記事などに触発されたことと、市村合併後10年を経過した今、村の時代から知名度を築き上げてきた特産品ブランドに生産者の皆様とわさび公社やJ Aが市を挙げてさらなる連携と進化のもとに遠野ワサビとして、より一層の生産拡大や知名度の飛躍を遂げていただきたいと思うことから質問のテーマに取り上げさせていただきました。

また、先日発行されたばかりの広報遠野12月号の特集記事に、タイミングよく「生産開始100年——わさびの味（魅）力」と題し、4ページにわたって大きく特集されていたことも非常にうれしく思われ、地元でありながらも、生産者、関係者ではない立場ではありますが、遠野市を代表する特産品を応援する意味から、ワサビに絞って質問をさせていただきます。

最初に、市長はワサビ栽培100周年記念祝賀

会に出席されたと伺いました。生産者の方々と
の交流会の場で、じかに言葉などを交わされ、
これまでの苦労話やエピソードなどを聞かれた
と思いますが、その場の感想や印象などをこの
際広く市民の皆様にもお伝え願えればと思いま
す。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） 瀧本孝一議員の一般質
問にお答えいたします。

一問一答方式ということで、ただいまはワサ
ビの100周年という中における祝賀会に出席し
ての印象も含めての今後のこのワサビ栽培に対
する取り組みということに対する市長の見解を
ということでのお尋ねでありました。

その前に、復興支援道路としての開通式、本
当に私も議長ともども車列というかパレードに
も参加したわけでありまして、多くの市民
の皆様が横断幕、あるいは小旗を持って、まさ
にお出迎えをさせていただいたと。また開通を喜
んでいただいたと。関係者の皆様から、まさに
遠野の底力というものを垣間見たような感じが
すると。まさに市民の皆様の本当に多くの方々の
御理解があつての今般の開通式ではなかった
のかなど。

それに伴いまして、安倍総理もわざわざ超多
忙な日程を割いての開通式、あるいは風の丘に
立ち寄っての市民への励ましということがあつ
たわけでございますので、これも本当に市民の
皆様のおかげではないかなと思っております、
心からお礼と感謝を申し上げ、この開通された
道路をどう生かすかというような中における取
組みをさらに強めていくことが、また課せら
れた一つの役目ではないのかなというふうに思
っているところでもあります。

また、水木先生、これは本当に前世は遠野に
いたと、あるいは第二のふるさとまで言い切り
ながら、遠野に対する熱い思いを持っておりま
した。きょう12月8日、昭和16年12月8日と、
いわゆる開戦された日でもあると。水木先生自
体が、あの悲惨な戦争の中における体験を本当

に生々しく語っていたことを、私もついつい
このように思い出すわけでありましてけ
ども、戦争は二度と起こしてはならないという中
における熱い思いが、あのさまざまな妖怪を文
化にまで高めていったという、一つの大きな功
労者の一人ではなかったのかなど。常に戦争、
あるいは平和といったものを、戦争を起して
はならない、平和だということを常に訴え続け
てきた方、そういった方と遠野がこうして関係
を持つことができたというのは、その思いを、
またこれも大切にしなきゃならないかというよ
うに思っているところでございますので、その
所感の一端も申し上げまして、ただいまの質問
の冒頭にあつたことに対する私の思いも申し上
げさせていただきたいというふうに思っており
ます。

さて、このワサビ100周年、これ私も出席さ
せていただきました。11月27日に遠野わさび生
産者協議会が主催いたしました、遠野宮守わさ
び栽培100周年記念祝賀会といったものに出席
したわけでありまして。

祝賀会には、20名ほどの生産者の方々が出席
されておりました。関係者もあわせて約50名ほ
どの祝賀会でありましたけれども、本当に多くの
皆様がこの100年というような時を経ての遠野
というよりも宮守ワサビ、達曽部地区の、御質
問にあつたとおりであるわけでありまして、
その先人のこの思いにそれぞれ思いを語りなが
ら、さらにまたそれを飛躍させていくんだとい
うような強い意気込みの中で皆様がテーブルを
囲んでいたという、そのような場面に私も参加
することができたわけでありまして。

改めてこの100年の重みというものを感じ、
それを当時100年前は全く相手にされなかった
というような話も聞きました。これはおじいさ
んの話から聞いたという話をしておりましてけ
ども、そのおじいさんの話、あるいはひいおじ
いさんの話という中に、この100年という時の
長さといったものをその中でも感じとることが
できたわけでありまして。

今、そういった中におきまして、生産者の

方々がその先人の思いといったものをしっかりと受けとめて、この遠野の、あるいは宮守ワサビという中におけるものをさらに遠野の特産品としてきちんと守り育てていこうというような強い意気込みを感じたということでありまして、これをこの100年という一つの契機といたしまして、次の100年に次ぐような、そのような大きな遠野の特産品としての確固たる地位を築くような形で生産者の方々ともきちんとまさに連携を図りながら対応していきたいということとその祝賀会の会場で強く感じたということをおし上げて答弁とさせていただきます。

○議長（新田勝見君） 4番瀧本孝一君。

〔4番瀧本孝一君登壇〕

○4番（瀧本孝一君） 次の100年に続けていただきたいという思いであったという答弁でありました。

実は、ちょうど3年前の12月議会において、「農産物特産品の振興について」と題し、同じワサビを含めて質問をさせていただいておりますが、本市にはワサビのほかにもホップ、暮坪かぶ、ブルーベリー、どぶろく、山ぶどうワイン、最近ではパドロンなど、その他私の認識する以外にも数々の特産品があることは言をまたないところでもあります。

その中で、長い間の生産者の方々の御努力によって知名度を上げ、特に合併後は、まちづくり検証委員会からの提言により、第三セクターである遠野わさび公社の理事長である副市長をはじめとする献身的な取り組み改革などもあり、品質の向上や数量の確保、遊休ビニールハウスを借り上げてのみずからの生産、販路の拡大に努められ、その結果、取引価格の上昇安定で生産者に喜びが生まれ、特産品としての地位が確たるものに高められた、その御尽力に敬意を表するものです。

この旧宮守村の特産品であったワサビが、今や遠野市を代表する特産品の一つに数えられると思われませんが、市長は宮守産ワサビの位置づけをどのように捉えているのかについて伺います。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） ただいまの御質問にありましたとおり、このワサビ、特産物の中におけるワサビの位置づけと、広報12月号にも特集を組まれて、「ワサビの味（魅）力」という中で、先ほど御質問の中にもそれほど触れられておりました。ただいまも6次産業化という中で、いろんな特産品があると。その中におきまして、いろいろな特産品のことを上げられておったわけでありまして、その中においても、ワサビは特筆に値する一つの遠野の特産品ということになるのではないかなというように思っております。

この高い知名度を持っているということが一つ大きい。そういった意味におきまして、この遠野というイメージとうまく重なる。というよりもダブると申しますか、そういった意味においては重要な位置づけにあるというふうに捉えているところであります。特にこのワサビというものを通じまして、ワサビ漬けであるとかソフトクリームなど、そういうような商品化もされていると。

先般、安倍総理が風の丘に寄ったときに、実は達曾部のワサビ漬けをポケットマネーで買い求めたのを私もそばにおいて、それを見たわけでありまして、本当に生産者の方が大変喜んで総理と語り合っていたということもひとつ印象的な光景であったわけでありまして、まさに遠野ならではのものがその中に象徴されるような一つの光景があったということも、そのワサビの位置づけを物語っているのではないかなというように思っております。

ワサビは、決して——こんなことはちょっとあれでございますけれども、料理の主役にはならない。けれども、そのいろんな和食には欠かせない一つの大きな地位を占めている、存在感を持っているということを考えれば、いいところの今和食ブームということにもなっていることでもありますから、そういったことにおける、この遠野のワサビの位置づけといったものは、

ますますそういった意味においてのその存在感を増す形になってきているのではないかなというように承知もいたしているところであります。

○議長（新田勝見君） 4番瀧本孝一君。

〔4番瀧本孝一君登壇〕

○4番（瀧本孝一君） まさにそのような思いを私もいたしております。

さて、来年度からは第2次総合計画の始まり、あわせてその中に遠野市農業振興ビジョン、いわゆるタフ・ビジョンⅡの計画も盛り込まれました。本市の基幹産業の第1次産業である農林畜産業は、少子高齢化や後継者難、T P P問題など、特に中小零細農家や中山間地においては、厳しい難題に直面している中にあります。

そうした状況を鑑みると、このタフ・ビジョンⅡにおいて、東北一の産地として生産者やJ Aとの連携をとりながら、遠野ワサビの生産量や販売額、栽培面積拡大などの数値目標をどのように設定し、達成していこうとするのか。消費者などへのブランドイメージの発信や周知拡大をどのように図っていこうとするのかについて、市長の考えをお尋ねいたします。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） 御質問にありましたとおり、総合計画の基本前期5カ年計画といったものを策定し、それに連動する中で、第2次農林水産振興ビジョン、通称タフ・ビジョンを策定をいたし、公表したということは御案内のとおりであります。

その中におきまして、このワサビは、特用林産物として、根ワサビ、あるいは畑ワサビといったような生産量の増加といったようなものを一つの大きな目標値として掲げているということでもあります。

ちなみに、ちょっと数字を申し上げますと、生産額につきましては、ワサビのあれは4,000万から5,500万ほどまでにとすることは、これは平成32年でありますから、この5年間でそのような一応数字をタフ・ビジョンの中で持つと。それを達成するために、生産量は根ワサビ

で、今6トンであるものを8トンまで、畑ワサビのほうは今はまだゼロでありますけども、これを35トンまで生産量をふやしていくというような目標数値を持ったところであります。

さらには、これを生産面積で見ますと、根ワサビのほうは3ヘクタールから3.4ヘクタールまで拡大をします。さらに、この畑ワサビのほうは4.6ヘクタールほどに拡大していくというような目標数値を持ったところであります。

これを達成するというのには、さまざまな取り組みの強化が必要であるわけでありまして、いふところのブランドというものとしての位置をはっきりさせなきゃならない。そうなってくると、ブランドというのは一定の品質のものを定時量、一定量を計画的に継続的にということでブランドというものに位置づけられるわけでありまして、この数値をきちんと確保できるような生産基盤の確立が、やはりワサビといったものの特産品をブランドとするものに持っていくためには、やっぱりこのような数字を何とかクリアできるような、それをそのような一つの環境整備をします。その意味においてのタフ・ビジョンにおけるそういった位置づけであるということでもありますので、関係者のさまざまな、あるいは市場関係者、流通業者のこの御指導もいただきながら、ワサビの生産量拡大の方向で今後積極的に取り組んでまいりたいというように思っているところであります。

○議長（新田勝見君） 4番瀧本孝一君。

〔4番瀧本孝一君登壇〕

○4番（瀧本孝一君） 具体的な数値目標を示していただきましてありがとうございます。それに向かってぜひ頑張りたいと思います。

その目標を達成するためにも、言うまでもなく、根ワサビや畑ワサビの栽培には安定したきれいな水や地形条件が大きく左右し、圃場の新設や更新には多額の費用がかかる聞いています。ワサビ苗は公社が比較的安価に供給していると認識をしていますが、例えば農家が新たに圃場の新設、拡大、更新を希望するような場合、

根ワサビ、畑ワサビに限らず、生産農家にとっては大きな負担と思われる投資に対して、市としての補助や支援制度はあるものか、また、ない場合には今後検討の余地があるものかどうか、少しでも農家の負担が軽くあってほしいと願う観点からお尋ねをいたします。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） ただいまブランドとして一定量を安定的に計画的に継続的にというようなお話を申し上げました。そのためには、やはり生産現場の方々が安心してそのような生産に取り組むという環境を、そのためにはどのような支援策をとということになるわけであります。これもある意味、当然のことであります。アスト——農家支援室の中に、このアストパワーアップ事業といったようなものを位置づけまして、1,500万円ほどでありますけれども、予算を市単独で計上いたしまして、補助率が3分の1でありますけれども、貸し付け対象として、ビニールハウスであるとか、さまざまなことで50万円、苗代であるとか資材費などにおきまして、補助対象としてのアストパワーアップ事業というものがありますので、これにおける新たな生産拡大に対する財政支援措置といったものを既に講じているということでありますので、今年度も新たにこの畑ワサビの生産拡大に取り組む生産者を対象に支援もしているということでありますから、まずこれをもって、きちんとフォローをするということを行っていきたいというように思っております。これは根ワサビも畑ワサビも同様な切り口でありますけれども、きちんとそこをフォローしていくというような体制をとっていききたいというように思っております。

○議長（新田勝見君） 4番瀧本孝一君。

〔4番瀧本孝一君登壇〕

○4番（瀧本孝一君） 現状の施策をまずは進めながらということでの充実を図っていただきたいと思います。

次に、生産拡大の一つの提案として聞いていただきたいのですが、例えばワサビ生産に適し

た水や場所があった場合、市や公社、またはJAが先導して圃場を整備して新規就農希望者に安く貸し出したり、ワサビ栽培や6次化で起業したいような地域おこし協力隊員を活用する方策も考えられます。また、緑峰高校などと連携して、ワサビの持つ効能を利活用し、消臭剤や殺菌剤の試験開発など、新しい感覚での商品開発に取り組んでみてもおもしろいのではないのでしょうか。

生産量が限られている中で難しい面もあるとは思われますが、ポップ和紙を開発し、日本学校農業クラブ全国大会で最優秀賞に輝いた遠野緑峰高校に大きな期待をしながら、市長の見解を伺います。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） ただいまの質問の中で、このワサビを通じてという分における地域活性化、あるいは産業振興、遠野緑峰高校との連携などは、今高校の再編が大きな課題になっているわけでありまして、緑峰高校もその組上に上がっていると考えれば、このようなワサビというものを通じながらのいろんな連携といったようなものも特色のある学校、あるいは地域に密着した学校、さらにはこの農業第1次産業をとっている中における一つの高校との連携といったものにつきましては、いろいろ御提案のありました件については、いずれも検討に値するというよりも、また検討しなければならない。ただ検討だけではない、やっぱり具体的な取り決めとして、もう前に進まなきゃならない、いずれもそのような貴重な、それでまた建設的な御提案だったというように受けとめたところでありますので、タフ・ビジョン、その中でも打ち出したものを一つ一つクリアしながら、形として関係者の皆様と一緒に、それを具体的なプロジェクトに持っていくという部分につきましては、御提案の趣旨をそのままというよりも、それを受けとめながら、関係者と一丸となって、この問題の具体化に取り組んでいきたいものだなというように思っております。

ちなみに、いま現在、遠野市淡水魚生産組合と連携いたしまして、この豊富な水資源を活用したワサビ田——圃場ですね——の整備が可能かどうか、大洞と大野平のこの淡水魚生産施設と実証試験を行っているということで報告を受けておりますので、これなども新たな生産の拡大という意味においては、非常にその成果も、実証試験の結果も、またある意味においては楽しみにしているということをし添えておきたいというように思っております。

いずれさまさま、新規就農希望の中における、そのような方のニーズにも応えるというためには、ワサビ栽培の技術研修、これなどもひとつきちんとできる仕組みもまた一方においてはつくっていかねばならないのかなというように思っているところでありますので、この試験開発、あるいはいろんなさまざまな可能性にチャレンジしていくということもこれからも関係者と一丸となって取り組んでいくことにしたいと思っておりますので、御了承願います。

○議長（新田勝見君） 4番瀧本孝一君。

〔4番瀧本孝一君登壇〕

○4番（瀧本孝一君） 実証試験なども私も認識をしておりますが、ぜひ成功裏に導いていただいて、さらに生産が拡大するような方向に持っていただければというふうに思います。

さて、ワサビ生産振興に関する最後の質問になります。

3年前の一般質問の際にも要望提案させていただいたワサビの全国大会に関しまして、昨年度の島根大会に引き続き、3年に一度開催される全国わさび生産者大会が平成29年度は岩手県での開催が決まり、旧宮守村時代の平成元年に開催されてから2度目となる開催が関係者の御努力により本市を会場に内定していると認識をしています。

見方によっては、まだまだ時間があるようにも感じられますが、大会を成功させるためにも、着々と準備を進めていかなければなりません。全国生産者大会開催に向けての準備や取り組み

の進行状況をお尋ねいたします。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） ただいま御質問にありましたとおり、全国わさび生産者大会が3年に一度という中で、平成29年には、この岩手県という中で、主会場が遠野宮守ということになろうかということを知っておりますし、もう既に、去る11月27日には、準備委員会の会議が開催されたと。それぞれ岩手県現地実行委員会の構成も準備され、それぞれ日程も確認されたということも聞いておりますので、来年度正式に実行委員会が立ち上がることになるわけですから、全国わさび生産者協議会、あるいは林野庁といったようなところの調整の中で、今後着実に全国大会の準備を地元遠野市としても生産者の方々と協議をしながら、この部分を進めてまいりたいというように思っております。

若干本会議中でありまして、この全国大会の部分について今御質問があったわけでありませうけれども、ちょうど前回の宮守体育館で行われた全国大会の際に、私も当時県庁のほう、県職員でありまして、当時秘書課におりまして、その全国大会に、当時の知事に随行しながら参加したことを、ついきのうのように思い出すわけでありませうけど、立派な大会でありました。

したがって、そのような一つの、30年近く前になるわけでありませうけれども、それを思い起こしながら、29年には立派な、それこそ全国に発信できるような大会になるように市の立場としても全面的に協力し、また支援をしてみたいというように考えているところであります。

○議長（新田勝見君） 4番瀧本孝一君。

〔4番瀧本孝一君登壇〕

○4番（瀧本孝一君） 着々と準備が進められ、準備委員会も発足したということで安心をしています。

ワサビの質問は以上とさせていただきます、次に2つ目の項目の質問、胃がん予防検診にピロリ菌検査の導入についてと題し、引き続き市長に質問をいたします。

この質問に関しては、本年6月議会で同僚議員ががん検診、がん教育の充実をという趣旨で、子宮頸がんや胃がん予防検診にリスク検診導入などについて一般質問がなされており、リスク検診という中身から多少重複する部分もあるかもしれませんが、御容赦を願います。

さて、高齢化時代の進展で、日本人男性の2人に1人、女性の3人に1人が何らかのがんになる時代と言われ、がんという病気は、もはや特別なことではない環境の中ですが、早期発見、早期治療で完治する可能性も高くなります。

そうした中において、先月25日、県内の自治体では初めて花巻市が胃がん予防のためにピロリ菌の検査導入をすると発表いたしました。この隣の花巻市の取り組みについて、私が知り得た範囲で中身を申し上げれば、20歳から5歳刻みで40歳までの若年層の市民、約4,800人を対象に検査キットを郵送し、自宅で大便を採取してポストに投函し、また郵送で送り返すというだけの簡便なものです。予算は約440万円で、通常自費で検査をすると3,000円から5,000円程度かかる費用は無料で、市民の負担とせず、今月下旬から検査キットが対象者に郵送され、来年1月9日から22日までの期間が定められており、検査機関は岩手県対がん協会への委託のようであります。

ところで、「胃の一生はピロリ菌に感染しているかどうかで決まる」という言葉もあるように、ピロリ菌は人の胃粘膜に好んで住み着く細菌で、幼少期に感染することが多いと言われ、高齢になるほど感染率が高く、日本人の約60%、50歳以上の約6,000万人が感染しているという推計データもあるようですが、普段何もなければ日常生活には支障はありません。しかし、菌の保持者は慢性胃炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、そして胃がんになりやすいため、ピロリ菌の感染の有無を調べることにより、菌を持っていない陰性の人はほとんど一生胃がんになる確率は低く、以後バリウムによる検診などは5年に1回程度でもよいとされ、逆に感染が判明した陽性の人は、内視鏡検査は当然ですが、除菌をす

ることによって潰瘍や胃がんへの進行リスクを大きく低下させると言われています。

今や、がんは珍しい病気ではなくなりましたが、はじめに、本市における各種がんの罹患率など、調査統計的な数字が把握され、公表できるのであれば、その実態をお知らせ願います。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） ただいまは、このがんという非常に高齢化社会の中にあっても、このがんの罹患率といったようなものは非常に高いという中における実態をどのように捉えているかというようなことであります。

ピロリ菌を通じての検査ということも含めてでありますけれども、ただいま御質問のありましたとおり、市が実施したこのがん検診におきまして、これは平成25年度の数字でありますけれども、がん発見者という一つの見つかったという中で、胃がん検診で3人、肺がん検診で2人、それから大腸がん検診で1人、乳がん検診で2人、子宮頸がん検診で3人と、そのような数字となっております。延べ1万4,133の方が受診し、11の方がこの検診を通じまして、がんが見つかったという一つの数字になってあります。

したがって、これを見ますと1万人当たり、約8人のがんの方がその検診で発見されたということの数字があるわけでありまして、この発見率ということになれば、数字的な0.078%という数字が上がっておりますけれども、考えてみれば11の方がこの検診で命が助かったということになるわけでありまして、この検診の重要性といったものは、この数字の中にもあらわれているんじゃないのかなというように思っているところであります。

データで、平成23年度にがんによる治療や入院の患者数は、当市では244の方が入院等を余儀なくされているということも数字的にはあるわけでありまして、やっぱり健康寿命ということも考えれば、この検診といったものの重要性といったものが、この数字の中からも示さ

れているのではないのかなというように承知をしているところでもあります。

○議長（新田勝見君） 4番瀧本孝一君。

〔4番瀧本孝一君登壇〕

○4番（瀧本孝一君） 数字にすれば11の方が25年の検診で見ついているということで重要性があるというお話でございました。

次に、今回の花巻市が県内の自治体では初めて、そして国内でもまだ先駆けと思われる胃がん予防検診の一環であるピロリ菌検査の導入について、市長はどのように評価するのかについてお尋ねをいたします。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） ただいまの御質問の中で、花巻市が取り組んだ、このピロリ菌を通じての検査という中における、これは御質問にありましたとおり、花巻市の実施は県内では初めてであるということでもあります。全国的にも同様の方法による実施は例が少ないというようにも聞いておりますので、ある意味では試行的な実施になるのかなというように思っておりますけれども、御質問にありましたとおり、この検査の結果によりピロリ菌の感染が判明した場合に、医療機関において、内視鏡検査等を受けることとなり、これがこの検診の実施の一つの医療機関の受け入れ体制ということもあるわけでございますから、ただこれは、やっぱり花巻の場合は、御質問の中にありましたように、花巻市と花巻市医師会が連携をとりながら、こういった一つの実施を行っているということでもありますので、もう先駆的な取り組みだということ踏まえながら、ただそれは先駆的ではなくて、先ほど数字を申し上げましたとおり、もう貴重な、受診の結果発見をしたと。で、早期治療につながるというところで命につながるということになるわけですから、やはりこの辺をきちんと踏まえながらの一つの対応も我々としても大きな検討課題の一つではないのかなというように思っているところでもあります。

○議長（新田勝見君） 4番瀧本孝一君。

〔4番瀧本孝一君登壇〕

○4番（瀧本孝一君） 私が知る限りでは、このピロリ菌検査は、まだ検査としては新しい方法で、全国的には普及はこれからだというお話でありましたが、花巻市の導入は評価に値するものだと私は思います。

次に、このピロリ菌検査には、採血による方法や呼気検査、内視鏡による検査などもあるようですが、医療機関での受診や医師、看護師も必要となります。

花巻市の方法は、自宅へ送られた検査キットに大便を採取し、送り返すだけの極めて簡単なやり方で、本市の大腸がん検診と似通った方法ではないでしょうか。

体への負担も特になく、費用的には約4,800人の対象者のうち、どれだけの受診者数を想定して予算額を440万円としたのかはわかりませんが、いずれにしても市民の負担がないということは、受診率の向上にもつながるのではないのでしょうか。

そして、何よりもピロリ菌に感染していない陰性の人は、胃がん等にかかる確率は極めて低く、その後、バリウム検査等の回数も減らすことができ、体への負担や経済的にも有効であり、残念ながら感染している陽性の人は、さらに検査を受ける必要がありますが、除菌をしてリスクを大きく下げることができるため、胃がんなどへの進行リスクの確立が判明しやすく、治療や予防などにも役立つこの検査方法を市長はどのように認識しているのかについて、先ほどと重なる部分もあるかもしれませんが、その所見を伺います。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） ただいまの御質問にありましたとおり、このピロリ菌への一つの取り決めでありますけれども、最近の研究では、このピロリ菌と胃がんの発症には密接な一つの関連性があることが、もう確認されているということも情報として聞いております。

ただいま御質問にありましたピロリ菌のこの

検査方法は、内視鏡検査のほか、比較的身体への負担が少ない血液検査、あるいは呼気検査、あるいは便検査など、複数の方法が今確立されてきているということでもあります。いろんな検査方法が出てきた。

この検診の目的は、いうところの100%予防できないがんを早期に発見することにひとつつながるわけでありますから、このピロリ菌の検査、現在の個人検診の個人の要望で受ける任意検診とすれば普及はしてきておるということでもありますけども、胃がんになるリスクがわかるということから、大変評価される検査というふうに位置づけられていることも聞いておりますので、こういった一つの中においている早期発見と、そしてそれが早期治療につながるという部分におきましては、これからも非常に大事な、特に医療機関の受け入れ体制を含めた調整もひとつ課題としながら取り組まなければならない検討課題の一つではないのかなというように承知いたしております。

○議長（新田勝見君） 4番瀧本孝一君。

〔4番瀧本孝一君登壇〕

○4番（瀧本孝一君） 医療機関の関係も見ながらということではありますが、現状の胃がん検診におけるバリウム検査は検査として残す必要があるとは思われますが、今後主流になりつつあると言われる、この簡便で有効性の高いピロリ菌検査を私は遠野市においても早急に導入することが必要と感じます。

もし導入された場合でも、私は60歳を超えているため、残念ながら40歳以下の若年層の対象にはならず、検査も受けられないとは思いますが、これからの若い方々の健康のために、ぜひとも導入を願うものであります。

ただ一つ残念なことは、市長がお好みの県内初の取り組み、自治体ではなく、二番煎じ、三番煎じとなるかもしれませんが、市長のお考えをお尋ねいたします。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） ただいまがん検診の中

におけるピロリ菌検査というものの導入予定の中におきまして、いろいろ御質問の中で、さまざまな現状なり、あるいはその中における課題といったものが示されたわけであります。

この11人という数字が早期発見につながったということを考えれば、この検診というものは極めて重要であるということはもう言うまでもありません。

したがって、この住民検診としてのピロリ菌検査の導入といったものにつきましては、1つはこれは二番煎じ、三番煎じという話もあったわけでありますけども、いいことはやっぱりやらなきゃならぬわけでありますから、国による指針や、あるいは花巻市の検診結果といったようなものにつきまして、情報をきちんと捉えながら、当市のこの遠野市の医師会、あるいは検査機関からの一つの指導などもひとついただきながら、指導助言をいただきながら、いうところのバリウム検査と併用しながらという部分を含めて、導入といったようなことも視野に入れた検討課題の一つではないのかなというようにも承知しているところでございますので、その辺のところ、担当部でもよく検討していただきながら、前向きにこの導入についても検討を進めてまいりたいというように思っているところであります。

○議長（新田勝見君） 4番瀧本孝一君。

〔4番瀧本孝一君登壇〕

○4番（瀧本孝一君） ぜひとも前向きに進めていただきたいと思います。

では、質問者を変えて3つ目、最後の項目は教育長に対し、茨城県教育委員の障害児出産差別発言の認識と教育現場での障害児、障害者教育についてと題し、順次質問をさせていただきます。

先月18日に開催された茨城県総合教育会議の席上で、女性教育委員が障害児らが通う特別支援学校を視察した経験を話す中で、妊娠初期にもっと障害の有無がわかるようにできないのか。教職員もすごい人数が従事しており、大変な予算だろうと思う。さらには、医療技術で障害の

有無がわからないようにできないのか。茨城県では減らしていける方向になったらいいという旨の発言をしたことが障害児出産差別であるとマスコミやネットで大きな話題になりました。

銀座で有名な画廊の副社長でもある、この教育委員の発言内容に対する反響は大きく、同委員は、翌日、配慮が足りなかったとして謝罪し、発言を撤回しながら、一度は委員を続投する姿勢を見せたものの、批判的な意見が多く寄せられ、結局24日に開かれた臨時の県教育委員会で全会一致で辞職願に同意して、即日辞職が決定したという事案については、教育長、教育委員長も御承知のことと存じます。

しかしながら、他県のこととは言いながら、教育関係者とは思われない資質の発言であり、ハンディキャップを背負いながら一生懸命生きている方々を傷つけ、看過できない問題であることから、教育関係者の感想や障害児教育について伺いたいと思い、質問をさせていただきます。

最初に、茨城県の当該教育委員は、その発言を謝罪の上、撤回して辞職するに至りましたが、まずいことをしゃべってしまったから、批判が多いから謝罪すればいいというものではなく、根底にはそのような思いがあるから、つい本音が出てしまったというのが事実ではないかと思われる。

人間の命の誕生を選択し、障害児の誕生が社会の負担になるがごときの、この差別発言について、教育長はどのような感想や認識をお持ちでしょうかお尋ねをいたします。

○議長（新田勝見君） 藤澤教育長。

〔教育長藤澤俊明君登壇〕

○教育長（藤澤俊明君） 瀧本孝一議員の一般質問にお答えをいたします。

まず、議員の御質問にありました事案に関しましては、他県の総合教育会議での発言であり、申し上げる立場にございませんので、コメントは差し控えさせていただきます。その上で、会議での発言、そして教育委員としての立場での発言のあり方については、私の考えを申し上げ

ます。

まず、会議の場において、さまざまな視点から多用な意見を述べるということは深い議論ができることにつながりますので、大事なことと考えます。

一方、教育委員とは、人格が高潔で、教育、学術及び文化に関する識見を有するものうちから、地方公共団体の長が議会の同意を得て任命した方ですので、そういう立場を踏まえて発言すべきと思います。

また、発言内容は、誤解を受けることなく、さまざまな方への配慮も当然必要だというふうを考えます。

○議長（新田勝見君） 4番瀧本孝一君。

〔4番瀧本孝一君登壇〕

○4番（瀧本孝一君） コメントは差し控えたというお話の上での御答弁をいただきました。内容については、私もそのように、発言に際してはそのように思われますが、次に、この障害児出産差別発言について、御自身は先天性四肢欠損症でお生まれになりながら、作家でタレントで小学校の先生の経験や子ども3人の父親でもあり、電動車椅子で多方面にわたり、いつも明るく御活躍の上、現在は東京都の教育委員でもある「五体不満足」の著者、乙武洋匡さんが、「私も生まれてこないほうがよかったですかね」とツイッターに書き込んだそうですが、障害を持つ方本人はもとより、その親や周りの方を傷つけるような優生思想や人権差別侵害と思われる教育委員の問題発言を本市の教育委員会としては話題に上がったり、議論をしたり、情報を共有しているのか、その辺の実態をお尋ねをいたします。

○議長（新田勝見君） 藤澤教育長。

〔教育長藤澤俊明君登壇〕

○教育長（藤澤俊明君） 今年度の学校教育の重点は御案内のとおり5つ上げております。1つ目は学力向上の推進、2つ目が特別支援教育の充実、3つ目が豊かな心を育む教育の推進、4つ目が特色ある学校づくりの推進、そして5つ目に学校経営の質的向上を上げてございます。

今申し上げました重点の2つ目、3つ目が、まさに議員のおっしゃる特別な支援を要する子どもへの支援については話題にし、また常に議論をしているところでございます。

当然、これまで重ねてきた議論の中では、人権侵害に当たる発言等はありません。

○議長（新田勝見君） 4番瀧本孝一君。

〔4番瀧本孝一君登壇〕

○4番（瀧本孝一君） 私も遠野市の教育委員さんにおいては、そのような方は全くいないというふうに確信をしております。

しかし、こういう話題を情報共有するようなことも私は大事ではないかなというふうに感じるところもあります。

さて、次に、障害を持つ方々には、今教育長が御答弁されたように、支援学校や特別支援学校などで手厚いケアを含めた教育や指導がなされていると思いますが、市内小中学校など、教育現場では授業などの中で命の尊さやいたわり合い、助け合い、支え合う心など、障害を持つ人に対する接し方などを含めた指導教育の実態はどのようなものであるのか、この際お聞きをいたしたいと思います。

○議長（新田勝見君） 藤澤教育長。

〔教育長藤澤俊明君登壇〕

○教育長（藤澤俊明君） 御質問にありましたような事項の指導については、学校では主に道徳の授業を通して行っております。

命の尊さについては、小学校1年生から中学校まで学びます。また、だれに対しても差別や偏見を持たないことについては、小学校高学年から中学校で学んでおります。また、道徳の授業だけでなく、特別活動や総合的学習の時間を利用してハンディキャップ体験をしたり、特別支援学校との交流活動を実施しております。そして、思いやりのある心と、それを実践できる力を育てております。

○議長（新田勝見君） 4番瀧本孝一君。

〔4番瀧本孝一君登壇〕

○4番（瀧本孝一君） わかりました。そのような授業が行われていれば、いじめなどがなく

なるといいますか、そういった部分にもつながってくるのではないかなと思いますし、非常に大事なことで、差別してはならないということをごひみんなに学んでいただきたいと思います。

最後になりますが、今まで個人の感想などを含めて御答弁をいただきましたが、最後に、1億総活躍社会と政府が言い出したことに、素直に、「はあそうですか」とは言えない気もする中で、多様な価値観を認め合いながら、だれもが安心して子どもを産み育て、ハンディキャップのある人には自然に寄り添って支え合い、助け合い、差別のない社会を築いていくためには、何が大事で必要であるのか、教育関係者としての御意見をお尋ねして質問を終わります。

○議長（新田勝見君） 藤澤教育長。

〔教育長藤澤俊明君登壇〕

○教育長（藤澤俊明君） 学校現場に限って言えば、先ほど申したとおり、やはり道徳教育の充実が一番大切であると考えます。そのためには、道徳の時間の充実はもちろんのこと、教育課程の中でさまざまな場面の中で道徳的指導が必要と考えます。

同時に、これまで行ってきております体験活動や道徳的実践の場の充実が必要であるというふうに考えます。

さらには、子どもの範となるべき教師、保護者、そして地域の大人たちが、子どもたちのよい手本になって実践していく、生活していくことも忘れてはいけないと考えております。

○4番（瀧本孝一君） 以上で、私の質問を終わります。

○議長（新田勝見君） 10分間休憩いたします。

午前11時00分 休憩

午前11時10分 開議

○議長（新田勝見君） 休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

次に進みます。1番小林立栄君。

〔1番小林立栄君登壇〕

○1番（小林立栄君） 公明党の小林立栄でございます。おととい12月6日、中京競馬場で行

われたG I 競走チャンピオンズカップを優勝したサンビスタ号は、遠野トレーニングセンターの代表取締役を務められている伊藤社長のグラウンド牧場の生産馬であります。

サンビスタ号は、2歳のときに初めて遠野の施設を利用し、毎年遠野で休養、英気を養い、レースに挑んできたそうであります。ことしも7月と9月に利用していたと伺っております。遠野で育っていった競走馬で中央競馬のG I 競走を勝利した馬は2頭目であり、全国に遠野の存在を示せたのではないかと思います。まずは関係者の皆様にお祝いを申し上げ、遠野市民として、ともどもに喜び合いたいと思います。

それでは、通告に従いまして一問一答方式で質問させていただきます。

国の重要文化財に指定されている千葉家住宅、大修理を前に千葉家まつりが開催されました。前夜祭では映画『遠野物語』の鑑賞会が行われたそうであります。私は、既に定員がいっぱいで残念ながら鑑賞できなかったのですが、雨に薫る千葉家で幻想的な夜となったのではないかと思います。

映画『遠野物語』は、遠野市千葉家がメインロケ地撮影地でありました。

最近では、日本アカデミー賞優秀作品賞を受賞された映画「蝸ノ記」が遠野ふるさと村や千葉家をはじめ、市内各地で約2カ月半にわたる大規模なロケ、撮影を行ったことは記憶に新しいところでございます。そのほか数々の映画やドラマ、CM等、遠野をロケ地として撮影が行われております。

遠野には、先人に守り育てていただいた自然や景観、歴史、郷土芸能をはじめとする文化や伝統があります。それが撮影場所として選ばれた要因の一つであると思います。ロケ、撮影を遠野の地域活性化、遠野の地方創生に生かしていくことができないでしょうか。

撮影場所として遠野を選んでいただくためにロケの誘致を進めていく、ロケ地としての魅力を高めていく、そういった取り組みが必要であると考えます。まずはロケについて、遠野市の

これまでの実績や現状についてお伺いいたします。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） 小林立栄議員の一般質問にお答えいたします。

一問一答方式での質問でございますので、順次お答え申し上げますけども、冒頭ありました馬の里での調教した馬がG I 優勝したというのは私も報告を受けておりまして、伊藤牧場の生産馬という中におけるものが遠野の馬の里、今60頭から70頭ほど遠野のほうに競走馬が入っておりまして、民営化という中におきます大変な議員各位の御理解をいただきながら、大きく方向を変更したわけでありまして、着実に関係者の皆様のお力によって、まさに遠野馬の里というのが全国に情報発信できているというのが手応えとして感じておりまして、先般馬の里の競走馬部門については、また契約を更新したという中で安定的な経営を行っているところでございますので、冒頭お話をしましたことを踏まえまして、情報も含めまして、そのようなことで私もかなり手応えを感じているということをおし添えておきたいというように思っております。

さて、このロケ地、これについての話がありました。千葉家、この間千葉家まつりも行うことができました。いよいよ本格的に復元、補修という中における次の100年に次ぐ、あるいは200年後に次ぐ大きなプロジェクトがスタートするわけであります。

そういった中におきまして、この遠野のロケ地の状況といったものにつきまして、ちょっと数字を申し上げますと、この『遠野物語』発刊100周年の年であった、この平成22年度は、実に28件の映画、ドラマ、番組、それからコマーシャルという中で28件もの情報が、この映画や、あるいはドラマや番組、あるいはコマーシャルという中で発信されたという数字を持っております。22年ですから、今から5年前でありますけれども、大変な発信をしたと。遠野というも

のを水木しげる先生の一つのいろんな情報発信もその中にあったわけでありませけれども、そういうふうな発信をしたと。その後、23年は4件、24年は3件、25年は6件、26年は4件、ことし27年は今のところは11月現在で4件と。ここ数年は一桁台の対応になっておりますけれども、ロケ対応という中におけるこのような遠野の取り組みといったようなものにつきましては、確実にそのような数字として確保してあるということで、特に記憶に残るものとすれば、平成25年の「蝸ノ記」、これは平成26年公開の映画であったわけでありませけれども、このメインロケ地として決定をいただきながら、全国に遠野の自然の、あるいは特にふるさと村等のあれが千葉家も含めて発信されたということが記憶に新しいわけでございますから、そのような状況にあるということをお願い添えて答弁いたします。

○議長（新田勝見君） 1番小林立栄君。

〔1番小林立栄君登壇〕

○1番（小林立栄君） 今平成22年度から27年、今年度までのいろいろ実績のほうを答弁いただきました。

この映画のロケでございますが、このロケを推進することで、実はさまざまなメリット、利点がございませ。俳優、撮影スタッフ、多くの関係者がロケ隊として遠野に滞在いたします。そうすれば、滞在している間、宿泊、レンタカーの借り入れ、ガソリンの補給、食事、また弁当、あと必要な資材の購入、クリーニング、そういったさまざまな直接的な経済効果、これも見込まれます。また、ロケ地として知名度が高まっていきませ、遠野の宣伝効果にもなります。撮影された遠野の自然や文化、景観が映像や画像、音声として記録にも残ってまいります。当然ロケ地をめぐる観光客も増加するなど、間接的な経済効果もございませ。

そこでお伺いいたします。もう少し具体的に「蝸ノ記」であるとか、経済的な効果というのが数字として把握されておりましたら、その数値のほうをお願いいたします。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） ただいま御質問にありましたとおり、このロケ地という中に遠野というものが位置づけられますと、経済効果も御質問にあった内容のとおりであります。観光振興、産業振興、あるいは文化振興、地域の活性化という中における一つの効果がということになるわけであります。

これはただいまの御質問にあったとおりでありますけれども、ちなみにこの「蝸ノ記」の中で、上映が始まったこの昨年の10月から11月にかけての観光客数が、遠野ふるさと村が9,000人、前年同期比で見ると、約40%近い数字がその中にあらわれたと。いかにこの映画、あるいはテレビドラマ等で発信されることが、このところの経済効果、産業振興、文化振興、いろんな切り口の中における地域の活性化に波及効果がすごく大きいということが、この「蝸ノ記」の一つの数字からも捉えることができるわけであります。

遠野ふるさと村が約9,000人でありませけれども、この千葉家はやはり同様5,000人、約30%ふえたということになったわけでありませから、御質問にあったような中における対応とすれば、すごく大切な、遠野の地域の活性化にとっては大事な取り組みの一つではないのかなというように思うわけでありませ。

そういった中で、このところのただいまありましたフィルムコミッションという一つの取り組みですね、これにつきましては、やはりそれぞれこのような数字の、確かな数字の波及効果ということを考えれば、やはり遠野としても積極的に、あるいはしっかりとした組織の中でいろんな観光協会、あるいはふるさと公社、あるいは株式会社遠野、それからいろんなさまざまな市民団体、ボランティアの方々がいっぱいいらっしゃるわけでありませから、その方と横断的に取り組みながら、やっぱりこれも繰り返しになりますし、あるいは言い尽くされた言葉ですけれども、文字通り遠野市の総合力として、このような問題にもアプローチしていくという

ことは極めて大事な大事な取り組みの一つではないかなというふうに認識いたしているところでもあります。

○議長（新田勝見君） 1番小林立栄君。

〔1番小林立栄君登壇〕

○1番（小林立栄君） 今御答弁の中でやはり波及効果が大きいという点、そしてこの後、細かく少し具体的に質問しようと思っておりましたフィルムコミッションという組織についての有益性についても御答弁いただきました。

当然ロケ地をめぐる観光客、こちらも増加してまいります。こういった間接的な効果、これもこのロケを推進するということは、とても極めて大きな経済効果が発生していきます。そのほか、私も参加させていただいたりもしているんですが、エキストラとして市民が参加できる機会、そういったものもございます。郷土芸能団体の活躍の場にもなるでしょうし、参加した子どもたちが、将来は俳優になろう、映像・撮影関係の技術者になろうと、そういった夢や目標を抱いてくれる、そういった機会になるかもしれない。

このロケ地として実績を重ねてくれば、髪の毛のセットでありましたとか、かつら、着つけ、メイク、乗馬指導である等、地元技術者の育成や、行く行くは雇用という効果も生み出されてまいります。つまり、このロケを推進することで経済効果、観光振興、産業振興、文化の振興、つまり地域の活性化という幅広い効果を得ることができるわけです。

当然、ロケの誘致やロケを成功させるためには、撮影を希望する業界団体や個人からの各種相談、またそういった情報提供をする窓口が必要になります。宿泊、弁当、エキストラの手配、警察や消防の許可が必要になる場合には、さまざまな使用許可、撮影許可をとるなどの支援活動も必要となります。

そういった映画やドラマ、テレビ番組、CM等の撮影に対して、誘致や支援活動の窓口機能を担う組織、それは先ほど御答弁にありましたが、フィルムコミッションという組織でありま

す。現在フィルムコミッションは全国各地に100余り、県内では盛岡市と奥州市に設置されております。

御答弁の中で、各種いろいろな団体と横断的に取り組んでいくという御答弁をいただきました。もうそれはとても大切なことであります。とはいえ、やはりキーになる組織、担当というのはやはり必要であると思います。

そこで改めまして、この遠野市にもフィルムコミッションを設置して、ロケ地としての魅力を高めて、ロケの誘致を進め、遠野の自然や文化や生かした地域活性化に取り組むべきと考えますが、改めて御見解をお伺いいたします。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） ただいまロケ地の誘致という中における組織的な取り決めを遠野もきちんとやったほうがいいんじゃないだろうかというような提言含めての御質問と承りました。盛岡市と奥州市には、そういったフィルムコミッションという中における組織が立ち上がっております。

このフィルムコミッションという一つのこの切り口の取り決めは、ただいま質問の中にも触れられておりましたけれども、映画、あるいはテレビ、ドラマ、CMといった中におけるロケーション撮影を誘致しながら、ロケをスムーズに進めるというために設置された非営利な公的な機関ということで1940年代にアメリカに誕生したということをお知らせしているわけでもあります。

国内では平成13年度に全国フィルムコミッション連絡協議会といったものが設置されまして、現在100を超える団体が、この全国組織に加入いたしまして、ロケ地の誘致、あるいは支援活動の一つの窓口として、御質問にありましており、地域経済、あるいは観光振興のために大きな効果を上げているということで、県内では繰り返しになりますけれども、盛岡と奥州市にあるということになるわけでもあります。

平成22年の『遠野物語』発刊100周年のとき

の件数、それからあのとときの情報発信、本当に私もつきのうのこのように思い出すわけでありすけれども、多くの市民の皆様が参加して、ロケ隊のいろんなお手伝いしたとさえ、昼食の手配、本当にまさに地域経済の活性化につながるような取り決めが随所で展開されたということも思えば、やはり遠野としてのこの一つの揺るぎない自然、歴史、文化、風土ということを考えれば、それぞれこのフィルムコミッションという一つの切り口を土台にしながら、ちょっとときぎな言い方になりますけども、この取り組みも遠野らしさ、あるいは遠野ならではのといったような中における一つの推進、受け入れ、あるいはPRと申しますか、誘致といったものの中における取り組みを、先ほどの答弁とこれはまた繰り返しになりますけれども、観光協会であるとか、あるいはふるさと公社であるとか、そういったような関係機関・団体、あるいは市民団体の方にも、それから何よりも、この郷土芸能の神楽、しし踊り等に対する立派なきちんとした組織も立ち上がっておりますから、そういった方々と一緒に連携を図りながら、積極的な誘致活動を展開していくという中における組織の必要性は、これはあるんじゃないかと。また、それをしなければ、総合計画に示したさまざまな活性化のプログラムも形にすることができないんじゃないのかなというふうに思っているところがございますから、そのような方向で、これも検討を進めて、何らかの形で、それこそ組織としての形が見えるように持っていければなということを考えているところがございますから、よろしくお願いを申し上げたいと思っております。

○議長（新田勝見君） 1番小林立栄君。

〔1番小林立栄君登壇〕

○1番（小林立栄君） こういったロケ地として誘致をしていく重要性、こういったところがございます。このロケを観光面で活用する取り組み、これは実はロケツーリズムという言葉がございます。国としてもロケツーリズム、フィルムコミッションの設置について観光振興策と

してやはり進めております。日本の映画やドラマ、テレビ番組など、世界中に発信され、世界中で楽しんでいただいている時代となっております。つまり国内だけではなく、海外からも映画やテレビを見て、このロケ地である遠野に観光にいらっしゃる、そういった時代をこれから迎えていくこととなります。

そこで、インバウンド、外国人旅行者対策についての質問のほうに移らせていただきます。

海外から日本を訪れる外国人観光客は年々増加しており、2013年度には全国で初めて1,000万人を突破。ことし1月から10月の推計では1,600万人を超えました、2014年の推計で全国での旅行消費額は2兆278億円と、過去最高を記録しております。国のほうとしては、多言語表示や公衆無線LANの設置などの受け入れ環境の整備、海外への情報発信の支援に力を入れ、取り組んでおり、また外国人旅行者が東京や大阪、京都などをつなぐ——ゴールデンルートと言われております。ゴールデンルートに集中していることから、新たに7つの広域観光周遊ルートを認定し、東北地方をめぐるコースとしては、「日本の奥の院・東北探訪ルート」と命名し、地方空港の積極活用をはじめ、主に台湾や香港の旅行者を中心にPR活動を展開しております。

遠野市においては、第2次総合基本計画、遠野スタイル創造・発展総合戦略においても、外国人観光客の誘客に向けた各インバウンド戦略の推進、平成32年度の目標数3,500人とうたっております。多言語の案内板、無線LANの整備等のハード面、外国語習得や外国の文化を知り、接遇のレベルアップをソフト面で図っていくなど、外国人観光客が安心して不自由なく遠野を楽しんで満足していただくためのおもてなしを形にする取り組みが必要であります。

そこでお伺いたします。遠野市の外国人旅行者の現状と今後の取り組みや見通しについてお伺いたします。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） この観光振興というのも遠野にとっては大きな市政課題であります。自然、歴史、文化、風土、そしてまた日本という中における一つの文化をという中におけるものとすれば、外国人の方々にも、この遠野の存在を大きくPRしながら、外国人観光客を受け入れることは極めて大事じゃないかなと思っております。

今、岩手県政の大きな課題であります国際プロジェクト、ILCのプロジェクトがあるわけでもありますけど、ILCの海外向けのPR用のビデオを私、前に拝見したことがあります。その県が策定いたしました海外の研究者向けのこのビデオには、遠野のいろんなふるさと村をはじめとする遠野の自然、歴史、文化、風土が日本という一つの中における象徴的な場所だという中で取り上げられているんです。いうところの国際的なプロジェクト、それもビッグなプロジェクトの中であって、その日本に誘致するという中における一つの材料として、遠野がきちんと位置づけられていることをもってしても、外国人観光客のこの受け入れるという分については、一つの優位性というのは持っているんじゃないのかなというふうに思っております。

そういった中にごさいます、現状ということでありましたので、ちょっと数字を申し上げますと、この過去5年で見ました場合に、先ほど平成22年の『遠野物語』発刊100周年という一つの節目がありました。その平成22年には1,782人という方が遠野を訪れているという、外国人の方が。で、東日本大震災以降、減少をいたしました。特に福島原発の影響を大きく受けたわけであります。その後、少しは回復しております、昨年度、平成26年でありますけども、1,208人という数字になってきているとうことで、いうところの平成22年の『遠野物語』100周年のときには2,000人近い数字まで行ったんですけども、その後落ち込んで、現在は1,200人台になっている。この数字で見ますと、例の震災が起きたときの平成23年には577人であったわけでありますから、これが徐々に回復してき

ているということにもなるわけありますので、ただいま御質問のありましたとおり、これを受け入れるに当たってのいろんなおもてなし、あるいはいろんなガイドブックの作成、それも単なる英語表記ではなくして、さまざまな多言語の中における言語表記なども行いながら、外国人観光客の方に、まさに遠野ならではの、遠野らしさというものを体験していただく、体感していただくような、そのような環境づくりも大きな課題の一つであろうかというように承知いたしているところであります。

○議長（新田勝見君） 1番小林立栄君。

〔1番小林立栄君登壇〕

○1番（小林立栄君） 震災の年を除いては毎年1,000人を超える方が遠野にいらっしゃっているという現状を答弁いただきました。

それでは、この毎年いらっしゃっている外国人の方々のどの国、どの地域から来ているとか、そういった傾向であるとか、あと具体的にそれではじゃあ遠野市として、これからこのインバウンド対策としてこういうことを考えている、そういった内容等ございましたら、そちらの御答弁をいただきたいと思えます。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） 今もこの中国人観光客も含めて大変な外国人、インバウンドという中における切り口の中から受け入れということで、5年後には東京オリンピックもという中におきます取り組みが進められるわけありますから、一つの国の政策と相まみえながら、遠野としての一つの存在感をという。

先ほどの質問の中にちょっと漏らしてしまっただけでありますけども、今般の総合計画の前期5カ年計画の中では、平成32年までには、この外国人旅行者の入込みを約3,500人という中における位置づけをしたところありますから、やっぱり遠野市にとっては3,500人、これはこの中におきまして、釜石のワールドカップであるとか、そのような国際的なイベントもあるわけありますから、そのような数字に近づくよ

うな中における取り組みを、これは冒頭質問されておりましたとおり、このロケ地の誘致、フィルムコミッションといったようなものとも相まって、すごく大事な大事な、一つの遠野にとっての産業振興活性化のためには大事な取り組みというように、繰り返しになりますけれども、承知しておりますから、この市役所の組織体制も含めまして、その辺のところをひとつどのように受け入れ体制と発進力を高めるかというような取り組みをきちんと整えてまいりたいというように思っているところであります。

○議長（新田勝見君） 1番小林立栄君。

〔1番小林立栄君登壇〕

○1番（小林立栄君） しっかりとインバウンド対策をしていくという御答弁をいただきました。

旅行といえば、やはりお土産を買うこと、これがやはり旅行のだいご味のひとつでございます。2014年の推計で全国での旅行消費額は2兆278億円と、過去最高を記録しております。消費額の内訳は、買い物代が3割から4割、宿泊代が3割、飲食に2割、残り1割から2割が娯楽や交通費となっております。

買い物代につきましては、中国をはじめとした東アジア、東南アジア旅行者の支出が多く、欧米旅行者は宿泊代、飲食、交通費の支出が多いようであります。

発展総合戦略のこの資料の中に、外国人観光客数というデータがございまして、そちらのほうを拝見させていただいているんですが、その中で見えてくることは、遠野においては、やはり中国、台湾からの旅行者と欧米からの旅行者、そちらの方々が主にいらっしゃっている状況であると読み解きました。

中国、台湾からの旅行者は花巻空港を使うなど、空路、大型バスによる団体旅行、欧米からの旅行者は、公共交通を使つての個人旅行、これが中心なのではないかと感じております。

インバウンドの取り組みといいましても、旅行の目的、対象者によって対応は変わってまいります。団体旅行中心の中国、台湾旅行者につ

いては、遠野での滞在時間を長くして、多く買い物をしていただく、旅行会社との交渉、PR、そういった面が重要になってくると思われま

す。個人旅行中心の欧米の旅行者につきましては、市内での飲食や買い物をしていただくことが大事であると思ひます。外国人旅行者が買い物をしている姿というのは、実はなかなか町の中

で見かける機会が多くありません。いずれにせよ、市内で外国住民旅行者が買

物をしやすい環境整備に取り組む必要があると考へております。現在、外国人旅行者が国内の免税店で購入した商品は消費税が免税されます。さらにことしの4月から免税手続カウンターというものを設

けてまして、商店街やショッピングセンター、組合など、複数の店舗での免税手続を一括でまとめて済ませることができ

る制度が始まりました。北海道の旭川平和通商店街の取り組みの例でございますが、免税手続一括カウンターを駅前

に開設。外国人観光客が同商店街振興組合に加盟する12の別々の店舗で購入した商品合算で5,001円以上をレシートと一緒に持ち込むと、同

カウンターで免税手続をしているという内容で

あります。この手続委託型の消費税免税店、免税手続カウンターの設置、これ遠野にもやはり必要な取

課題であるわけであります。

先般、和歌山県の田辺市のほうに、全国道の大会の、全国大会がありましたので出かけました。田辺市長さんといろいろ懇談したときに、京都があり、奈良がありという中で、和歌山県田辺市も確実に外国人の方々がふえてきていると。それもかなりの数として、熊野古道などもあるわけでありますから、そういった中において、日本の文化、あるいは日本の自然ということで、京都、奈良だけではないという中で、一つの回遊のあれとして田辺市にもどんどん外国人が入ってきてますよという話を聞いてまいりました。

そういったところを考えれば、遠野も先ほど来申し上げますとおり、外国人のその3,500人という数字を一応目標数字を掲げたわけでありますから、ただそれを受け入れればいいじゃなくして、ただいま御提案のありました買い物も含めて、どのような形での宿泊、買い物も含めて、免税店が実はこのJTBの調査によりますと、4月1日現在で、全国で約1万8,000、約1万9,000件ほどの店舗が税務署から許可を得ているという、これが昨年10月と比較すると半年で約2倍になったと。かなりの勢いでこういったようなものが全国に至る。旭川の例も今出されました。そうなってくる場合、遠野もまさにうかがしてられないということは当然なわけであります。

後手後手になってしまっ、後からというよりも、まさに打って出る、高速道路もまさに遠野まで延びてきました。いろんな面での環境が整ってきております。釜石のラグビーワールドカップ、あるいは世界遺産としての橋野高炉といったようなものの中における一つの流れが遠野にも入ってくるということが当然予想されるわけでありますから、そういった中における免税店の取扱い、あるいはクレジットカードの一つのこの制度が使えるということになれば、行政だけではどうしてもないという部分がそこにあるわけでありますから、できれば遠野商工会のような組織とうまく連携をとりながら、免税

店の問題、あるいはクレジットカードの取り扱いの問題、そのような買い物というものを、いわゆるショッピングといったものにどのようにアプローチしていくかということについて、やはりそれこそ具体的に環境整備のプログラムをというよりもプロジェクトを立ち上げて、そういうような受け入れ体制の環境整備を急がなければならないかと。でなければ3,500人という目標を掲げたんだけど、結局はトラブルが続きましたよというようになって、結果的にはマイナスのイメージということになりかねないという部分があるわけでありますから、せっかくこのいろんな外国人観光客がという中における流れがあるわけでありますから、それをきちんとキャッチングができるような、そのような、中にはこの買い物と、ショッピングといったようなものも大きなクリアしなければならない課題の一つであるというように承知いたしているところであります。

○議長（新田勝見君） 1番小林立栄君。

〔1番小林立栄君登壇〕

○1番（小林立栄君） 外国人旅行者へのおもてなしが遠野の地域活性化につながっていくようなインバウンドの取り組みを求めまして、次の質問に移らせていただきます。

国土強靱化の取り組みについて質問いたします。

大規模自然災害等への備えについて、最悪の事態を念頭に置き、致命的な被害を追わない強さと速やかに回復するしなやかさを持った安心安全な国土、地域、経済社会の構築に向けたまちづくり政策、産業政策も含めた総合的な対応を行っていくため、強くしなやかな国民生活の実現を図るための防災減災に資する国土強靱化基本法、これが平成25年に公布施行され、この基本法に基づき、平成26年6月には国土強靱化基本計画が策定されました。この基本計画、大規模自然災害等が発生しても、1つ、人命の保護を最大限に図る。1つ、社会の重要な機能が致命的な被害を受けず維持されること。もう一つ、国民の財産や公共施設に対する被害の最小

化、迅速な復旧復興を可能とすること、これらを基本目標として、国土強靱化にかかわる他のさまざまな計画の指針となる最上位の計画となるものであります。

基本法第13条により、都道府県及び市町村においても、国土強靱化地域計画を定めることができることと規定され、各自治体においても、地域計画の策定、策定に向けた検討が進んでおり、岩手県においても地域計画策定に向けた取り組みが進んでいるところであります。

地域強靱化計画を策定するメリットとしては、被害を少なくすることができる。市民の生命と財産を守る。地域の持続的な成長ができる。地域強靱化計画に基づき実施される取り組みに対して、関係府省庁所管の交付金、補助金等による適切な資源、施策の効果的、計画的な見直しへのフォローアップがあることでございます。

電柱を地下に埋める無電柱化、山林の活用、木質バイオマスや小水力発電などの再生可能エネルギーの導入促進、消防団の強化などもこの国土強靱化の取り組みの中に入っております。つまり地域活性化、地方創生と密接な関係となっております。

第2次総合計画、遠野スタイル創造・発展総合戦略等と連携、整合性を図りながら、強靱化の取り組みを推進していくことが重要だと考えます。遠野市の地域強靱化計画の策定の有無も含めて、国土強靱化の取り組みについて市長の見解を伺います。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） ただいまの国土強靱化という中における取り組みの市長の見解はということでありました。

御質問の中にありましたとおり、この国土強靱化法は、平成25年12月に公布施行されたという中にあるわけでありまして。

御質問の中にも触れてはいたしましたが、この国土強靱化は「強くしなやかな国民生活の実現を図るための防災・減災等に資する国土強靱化基本法」という中における、そのような表現を

されているわけで、ただ、強靱化だからハードとして、それを整備すればいいということではなく、やっぱり先般の東日本大震災、田老町の現場に行ってみました。

100年かかって、まさに人間の英知をもってあれだけ強大な、まさに強いというよりも防潮堤をつくったわけでありまして。これ世界一安全な、津波には安全な町だということを世界に発信しておいた町が、また消えたわけでありまして。それを越える津波が押し寄せた中であって、田老町が消えたというあの姿を見ておれば、単なる防ぐというよりも、言うなればしなやかなという中における減災という取り組みも、やっぱりこの災害対応にとってはすごく大事なキーワードではないのかなというようなことを現場から私も感じたところであります。

そういった中にございまして、先ほどの質問の中にありました市長の見解をとということでありました。こういった中におきます法律の強くしなやかな、それを防災減災につなげるという取り組みの中におきまして、遠野市とすれば平成26年には県内市町村においては最初となる、初となる遠野市防災基本条例を制定をいたし、災害に強いまちづくりというものを一方においてはソフトの面からも進めるということを力強く宣言をしたわけでありまして。この条例の制定に当たりましては、議員各位の大変な御理解もいただき、そのような形で条例化をしたということでありましてけれども、そのような災害に強いまちづくり、そしてこの防災基本条例を踏まえまして、いうところの防災マップ、これもつくって、一つの自助、共助、公助という一つの取り組みの中から、まず自助ということを中心にしながら、自分の地域がどういう地域なのかということをやっぱり市民の皆さんにきちんと周知をさせようということで防災マップを策定いたしまして、自主防災組織も立ち上げた。各地区センターごとに自主防災を組織しながら、さまざまな災害に強いまちづくりということをソフトの面からも進めているということでありまして、そのほかにおいても、これは全国初の

採択であったわけでありますけれども、26年度には大規模災害への対応の対応力を公助するための消防緊急防災行政デジタル無線を全国第1号として整備することができたと。約10億円ほどの予算があったわけでありますけれども、消防庁の特段の御理解のもとに、そういったものも整備することができたと。

そしてまた、さらには、自衛隊や警察隊、消防隊等の中におけるさまざまな訓練も行っておりまして、東日本大震災の風化を防ぐという中で後方支援活動を伝えるためにおける、仮設でありますけれども、後方支援資料館、これはこの開所以来、もう既に4,000名近い方が訪れているということにもなっているわけでありますから、これも防災減災という中における意識という分においては、この仮設の資料館もかなりの役割、きのうを果たしているのではないのかなというようにも思うわけであります。

また、一方においては、神奈川県南足柄市との防災協定の締結、あるいは市内郵便局、さらにはmm1に進出いたしました株式会社サンデーとの中における災害時応援協定といったようなものも締結するなど、官民一体となった、そのような取り組みも一つ一つ形にしているところでもありますので、これがいうところの国土強靱化——強くしなやか、私はこの強くしなやかという部分においては強い、ただ防ぐというだけではない。やっぱりしなやかな一つの対応の中で、尊い、戻っては来ない命を守るというような仕組みづくりこそが、一つ国土強靱化という法の中における法律の一つの理念であり、それを我々が現場で形にするには、市民協働という中からそれをつくり上げていくことになるのではないのかなというように認識を持っているところがございますので、よろしくお願いを申し上げたいと思っております。

○議長（新田勝見君） 1番小林立栄君。

〔1番小林立栄君登壇〕

○1番（小林立栄君） ただいまさまざまな遠野市の取り組みを答弁していただきました。

私も、くしくも国土強靱化計画、これやはり

ハードのみではなくて、しなやかさ、ソフト面、とても大切だと感じております。そして、遠野市のさまざまな防災の取り組み、減災の取り組み、これは全国に誇れるものだと思います。

今、県のほうで地域計画策定作業が進んでいると思います。ぜひ遠野市としても積極的に県の地域計画のほうにしっかり働きかけを行っていただきたいと思います。

いずれにしても、大切なことは、この最悪の事態を念頭に置いてしなやかに対応していくこと、危機意識を持って取り組んでいくことであると思います。

そういった考え方で、この国土強靱化、実はさまざまな幅広いテーマがございます。今回は道路に絞って質問させていただきます。

以前に、岩手県道路整備促進総決起大会のほうに参加させていただきました。また5日は東北横断自動車道釜石秋田線の遠野インターチェンジから宮守インターチェンジ間が開通となりました。道路の重要性を再確認、再認識しているところであります。

道路は、人と人、地域と地域と結んでさまざまなものを運んでおります。人間の体で例えると、血管のようなものでありまして、また思い起こせば、東日本大震災では、津波災害により沿岸の45号線が寸断された状況の中で、発災の1週間前に開通した釜石山田道路4.6キロの区間を通して、住民が津波から逃れ、安全な場所まで避難できた事例がございます。その道路は、その場の復旧、復興活動を支える命の道としても有効に機能いたしました。

道路が、平時は当然ですが、いざというときに使えないという状況は避けなければなりません。また、総決起大会で市長が読み上げた決議の中に、道路の老朽化対策における人材育成、点検、診断システムの拡充及び点検、診断、補修等に対する財政措置の充実という項目がございました。

必要な道路をつくっていくことも大切であります。しかし、安心安全な道路を維持管理していくこと、これが今後ますます重要となってく

ると考えます。

国の国土強靱化推進本部が決定した国土強靱化の具体的な実施、施策を示したアクションプラン2015の中で、交通・物流の取り組みの一つに路面下空洞調査の実施というものがございませぬ。道路の地中にできた空洞を調査するものであります。道路の陥没の発生件数は全国で年間4,000件を超えと言われ、通行人がけがをする事態も発生しております。

主な原因としては、地震や大雨、下水管の老朽化であると指摘されております。遠野市においても、東日本大震災とその後の余震を含め、大きな地震に遭遇しております。

近年は集中豪雨もふえており、バイパスが川のようになる道路の冠水も目にしております。下水管の老朽化も進んでいて、条件が一致しております。

東日本大震災の際には、仙台市の市立病院の前の道路が広範囲に陥没し、救援活動に支障を来す事態となりました。

遠野市では、路面正常調査等で路面の劣化状況などを調査して、道路の維持管理について計画的に取り組まれていると思っておりますが、路面下には空洞ができていく可能性があるのではないのでしょうか。

地上からは発見が難しい道路の路面下で発生している空洞の有無や、その範囲を正確に把握し、道路の陥没を未然に防ぐ危機管理としての取り組みが必要であると考えます。

また、路面正常調査と路面下空洞調査を組み合わせ、計画的な維持管理と危機管理で道路の長寿命化を図るためにも路面下空洞調査を行うべきと考えますが、御見解を伺いたします。

○議長（新田勝見君） 午後1時まで休憩いたします。

午前11時58分 休憩

午後1時00分 開議

○議長（新田勝見君） 休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） 先ほど国土強靱化に関しまして、ソフト・ハードの取り組みが必要であるという部分の答弁を行いました。

で、ただいまは路面下調査という中で、全国で4,000カ所も陥没をしているという事例も発生しているぞと、こういった老朽化、あるいは経年劣化というか、そのような中におきまして、いうところのメンテナンスをしなきゃならない箇所もそのような中で水道、上下水道も含め、あるいは道路も含め、これは建物も含めてなわけでありませぬけれども、これも国土強靱化という切り口からは、大変大事なひとつの取り組みであり、やらなければならない、それも緊急にやらなければならない課題だというように承知いたしております。

したがいまして、この遠野市における道路等の路面下調査ということになった場合においてという中で、道路のこの整備、あるいはメンテを担当しております建設課があるわけでありませぬけれども、建設課を所管しております環境整備部長のほうから、現在の遠野市の取り組み状況について御答弁申し上げますので御了承いただければと思っております。

○議長（新田勝見君） 仁田環境整備部長。

〔環境整備部長仁田清巳君登壇〕

○環境整備部長（仁田清巳君） 命によりまして路面下空洞調査についてお答えいたします。

安心安全な交通を提供する道路は、社会インフラ整備の最重要課題になっております。このことから、災害に強い道路整備とあわせて既設道路の維持管理を計画的に実施してございます。

現在の道路維持修繕計画においては、その調査方法は道路表面をビデオカメラで撮影し、路面状況等を判断するものであります。残念ながら舗装面の下までは調査はしてございません。

本市の道路においても、水道管、下水道管、さらには農業用パイプライン、それから横断管渠等が多数埋設されておりますが、幸いなことに交通規制を伴うような大規模な陥没は発生しておりませぬ。

しかしながら、道路構造物の老朽化は確実に進行してございますので、そのような道路下の構造物の老朽化に伴う事故を未然に防ぐためにも、このような路面下空洞調査は効果的であると判断しております。

また、災害に強い道路ネットワークの実現に向けて、適切な維持補修を行うことは道路管理者の責務でございます。今後、国道交通省が主催で定期的に開催しております岩手県、県内自治体全てが参加しております道路メンテナンス会議に、このような会議の場がございますので、こちらの会議において、路面下空洞調査も含む維持管理に有効な調査方法を国土交通省、岩手県などと直接意見交換し、そして提言してまいりたいと考えております。

国土強靱化計画における災害に強いまちづくりを構築するためには、国土交通省をはじめとした関係する省庁に対して、道路を含む社会資本の維持修繕の有効性、必要性を訴え、全国市長会等を通じて新たな仕組みづくり、制度制定に向けて働きかけてまいります。

一方では、国土交通省においては、トンネルや橋梁等の施設は5年に一度の定期点検を全ての道路管理者に義務化をしてございます。その定期点検を確実に実施して、遠野市民の安全安心確保に努めてまいります。

○議長（新田勝見君） 1番小林立栄君。

〔1番小林立栄君登壇〕

○1番（小林立栄君） この路面下空洞調査、効果的であると判断していると御答弁をいただきました。いろいろ調べてみましたら、現在は技術革新がさらに進んでおりまして、五、六十キロのスピードで車を走らせながら、マイクロ波レーダーで路面下の状況を調べ、すぐに正確な三次元に解析をする、そういった技術もあるそうでございます。

先ほど道路を血管とたとえましたが、私たちの生活で例えると、レントゲンやCT検査で血管の異常、病気を発見するようなイメージであります。その上で計画を立てて治療や予防をしていけばよいわけでありまして。技術革新を活用

することで、早期の発見、そして費用の縮減を図ることも可能になります。そういった技術的な評価、そういった視点も取り組みながら、取り組んでいただきたいと考えを述べまして、次の項目に移らせていただきます。

今回最後の項目になります。だれもが読書を楽しめる環境づくりへの支援について質問をいたします。

読書には、人生の花があり、川があり、道があり、旅がある。星があり、光があり、楽しみがあり、怒りがあり、大いなる感情の海があり、知性の船があり、果てしなき詩情の風がある。夢があり、ドラマがあり、世界がある。

これは、ある世界桂冠詩人の読書についての言葉であります。

健康で文化的な生活を過ごしていくためにも読書、やはり重要でございます。文化庁が国民の国語に関する意識や理解の現状について調査を行っております。

平成25年度の調査では、1カ月に1冊も本を読まないと答えた人の割合が60代以降に増加する傾向で、70歳以上では6割の方が読書をしていないという結果が出ております。

その理由については、視力などの健康上の理由が60代では53%、70歳以上では63%となっております。熟年者や弱視で読書や読み書きに困っている、悩んでいる方は200万人を超えとも言われております。視力などの健康上の理由から、読書をあきらめてしまっている方々が多くいらっしゃるのではないのでしょうか。

高齢化社会のこういった現状の中で、今大活字本という本が注目されております。大活字本とは、活字が通常の倍以上に拡大され、読みやすくなっている、字が大きい本でございます。読書が困難な熟年者や弱視の方が読書を楽しめる環境づくりとして、この大活字本の普及や周知が必要であると考えます。

そこでお伺いいたします。

障害者手帳を持つ方への支援として、日常生活用具給付等事業という補助制度がありますが、

大活字本をこの日常生活用具給付等事業の対象品目に加えて明記をし、対象の方や御家族にもわかるように周知を図り、この大活字本の普及に努めていくべきと考えますが、お考えをお聞かせください。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） ただいまの読書というものを通じての豊かな生活という面につきましては、御質問の中にありましたとおり、非常に重要な一つの人間の生き方としても大事な一つの要素ではないかなと。活字を親しむ、読書を通じて、さまざまなまさに心の栄養をその中からとるといことも生きがいといったものにもつながる。やっぱり意欲といったものにもつながる。あるいはその中でさまざまな知識を得て刺激を受けながら、この元気で健康でいれるということにもつながるわけでありますから、極めて大事な一つの環境づくりとしては重視しなければならない一つの課題ではないかなと思っているわけであります。

その中でございまして、この障害者等日常生活用具給付事業の給付対象といったような中における取り組みはいかがなものかという話がありました。で、今は視覚障害者の障害等級、1から6級に関係なく、全ての視覚障害者を対象に、視覚障害者用拡大読書器の給付があります。過去5年間で10台給付したという一つの実績があります。

この拡大読書器は、文字を拡大し、本を読むことができるほか、新聞や雑誌も読むことができるという、そのような環境としての後押しというか、サービスというよりもそのような支援事業なわけでありますけれども、ですから、これをひとつきちんと対応するというほかに、この大活字図書という、これを今寄附対象としている自治体は、県内では今市はないという状況でありますので、私はこれは現状では対象する今のところは予定はないわけでありますけれども、これからますます高齢社会という中に入っていくわけでありますから、御質問の中にありまし

たとおり、読みづらい、あるいは視力が衰えたという部分の中におけるこのような方々に対する新たな部分とすれば、やっぱり一つの検討課題として位置付けることが必要ではないのかなというような認識でいるところであります。

一般図書や新聞等も読むことができる拡大読書器の利用周知を図るということにもって、まず取り組んでいきたいというように考えているところでございますので、御了承いただければというように思っているところであります。

○議長（新田勝見君） 1番小林立栄君。

〔1番小林立栄君登壇〕

○1番（小林立栄君） 今、市長のほうから読書の大切さ、現状としては拡大読書器、そういったものを日常生活用具給付等として活用しているという御答弁でございました。

この大活字本、これ実は厚生労働省のほうの日常生活用具給付等事業のほうにも今年度明記されまして、全国にこれから拡大されていくものと思っております。ぜひ遠野市におきましても、来年度から明記をしていただけるように考えを述べまして、次の項目に移ります。

今度はちょっと視点を変えまして、図書館における大活字本の拡充と周知について質問をいたします。

現在、市立図書館に大活字本コーナーがございます。熟年者や弱視の方が、気軽に身近に図書館をさらに利用できるように、大活字本の蔵書数をふやし、その拡充を図ることが大切ではないでしょうか。

あわせて大活字本以外にも点字図書やデジタル録音されたDAISY図書といった視覚障害者図書がございます。これらを紹介する企画展示を行って、多くの市民の皆様実際に体験をしていただくなど、理解や周知を図ることも大切であると考えます。

以上、2点につきまして御所見をお伺いいたします。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） 先ほど拡大読書器の利

用周知をもっと積極的に図るという御答弁を申し上げます。やっぱりこれから高齢社会であります。熟年者、さらには弱視という中における読書環境を整えるということはもちろん、これは繰り返しになりますけども、大事な一つの課題でもあります。これも対応していかなければならない。これが減っていくというよりは、これからふえていくということにもなるわけがありますから、それに対応した一つの環境整備というのは大事であります。

2点目として、ただいま図書館の充実をこういった熟年者であるとか弱視者等に対する図書館の対応をという一つの御質問でありました。具体的に今の取り組みの中におきまして、さまざま図書館も取り組んでいるところでございますので、図書館長のほうの文化研究センターの部長が図書館長を兼ねておりますので、そちらのほうから具体的に御答弁を申し上げたいと思っておりますので、御了承いただければと思っております。

○議長（新田勝見君） 図書館長。

〔遠野文化研究センター部長兼調査研究課長兼市史編さん室長図書館長兼博物館長小向孝子君登壇〕

○遠野文化研究センター部長兼調査研究課長兼市史編さん室長図書館長兼博物館長（小向孝子君） 命によりお答えいたします。

大活字本は、現在353冊ございます。年々蔵書数をふやしているところでして、貸出者数は平成18年から購入しまして2,255冊となっております。

本を絵と活字と音でデジタル録音したDAISY図書というのもございますが、今年度は市内各小中学校、花巻清風支援学校遠野分教室のほうにも貸し出しをし、普及啓発に努めているところです。

また、今年度は点字本——児童書になりますが、これを購入しまして、貸出件数はこれまで19件に及んでおります。

図書館では、先ほど議員御承知のように、大活字本コーナーを常設しております。この本を

敬老の日前後にはミニ企画展を開催しながら、この大活字本展を開催して普及啓発に努めているところです。

また、広報遠野でも、おすすめ本の本に大活字本を掲載し、PRしているところです。今後も大活字本をふやしながら、周知を図り、高齢者の読書普及、図書館利用の拡充に努めてまいります。

図書館では、日ごろから利用者の求めに応じて、県内外の図書館と図書の相互貸借を行っております。点字本の貸し出しについても、需要が少なく蔵書数が少ないことから、点字本を多数蔵書している岩手県立視聴覚障がい者情報センターから借り受けしながら便宜を図っていく所存です。

高齢化社会を迎え、図書館の機能拡充を図っていくためには、きめ細かな対応が必要となっております。身近な場所にだれもが読書を楽しめる施設を整備することが大切となっております。そういった意味からも、現在進めている本庁舎建設整備事業の中でも1階にまちなか図書館のスペースを整備する予定であり、さらなる読書環境整備に努めてまいります。

○1番（小林立栄君） ぜひ福祉と図書館の連携を十分に図り取り組んでいただきたいと考えを述べまして、質問を終わります。

○議長（新田勝見君） 次に進みます。15番浅沼幸雄君。

〔15番浅沼幸雄君登壇〕

○15番（浅沼幸雄君） 政和クラブの浅沼幸雄でございます。通告に従いまして一般質問を行います。

私からは、先般11月24日の市議会全員協議会で示され、今12月定例会に提案されております第2次遠野市総合計画について、一問一答方式により順次質問してまいります。

質問に入る前に、一言前置きを述べさせていただきます。

市議会全員協議会で第2次遠野市総合計画が示された翌日、11月25日の地元紙に計画についての記事が掲載されました。その記事の最後に

市長のコメントが載っております。それを引用させていただきたいと思っております。

以下、原文のままでございます。

本田敏秋市長は、市民への周知を図るとともに、計画を具体化するための作業を急ぐとしている。

という内容でありました。余計なこと、あるいは余計なお世話かもしれませんが、本日の私の質問に対する答弁は、私を含めた議員全員に対してはもちろんでありますが、一人ひとりの市民に対しましても、さらには市長の意図するところをくみ取り、第一線で計画を推進していく職員に対しても重要な周知の場、そして機会として捉えていただければと思ひながら、質問してまいりたいと思ひます。

それでは質問に入らせていただきます。

第2次遠野市総合計画前期基本計画で市が、あるいは市長が目指そうとしていることは何であるのかについて、改めてまずお伺いしたいと思います。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） 浅沼幸雄議員の一般質問にお答えいたします。

一問一答ということでの対応でありますけれども、質問に先立ちまして、前置きといたしましてこの11月24日に第2次遠野市総合計画前期5カ年計画、それからそれに伴う健全財政5カ年計画というものをお示ししながら、また一方においては遠野スタイル創造・発展創造戦略の一つの概要等もお示しを申し上げた。その中で、文字どおりこれができたからいいんじゃない。これをやはり市民一体となって、もちろん議会議員の、各位の御協力もいただきながら、一つ一つ身の丈の中から形にしていかなければならないというような中における一つのコメントも出したということでありまして、またそのとおりであります。

計画が策定が終わったからそれで終わりということじゃなくして、文字どおりこれからこの厳しい行財政の中で、あるいは市町村を取り巻

く厳しい環境の中で、これをどのような形で市民の皆様にはちゃんと見える形での具体的なものに持っていくことのスタートなわけでありましてから、極めてたゞいま前向きの部分の中で述べられた部分は私も謙虚に、また素直に受けとめながら対応していかなければならないかと改めて覚悟をいたしているところでありまして。

そういった中におきまして、将来の進むべき道としての将来、市長としての考えはということであります。これはきのうからの一般質問の中でもいろいろ述べておりますとおり、我々基礎自治体の市町村を取り巻く状況は、大変厳しいものになってきている。合併から10年、そしてまたこの東日本大震災というものの中から震災前、震災後というキーワードの中で、基礎自治体としての市町村は懸命に頑張っている。

そういった中に、この道路問題一つ踏まえても、あるいは情報通信技術の一つの進化を踏まえても、大きく取り巻く状況が変わっている。その変わっていく状況の中にいかに進化というキーワードの中から、この目指すべき方向の中で具体的に柔軟な発想の中で対応していくかということが大事だと思っております。

そういった中で、将来という部分を考えてみた場合に、遠野市の持つこの地勢的、あるいは交通の、ハブ機能としての交通の幼少、さらには地理的な一つの状況、沿岸と内陸の一つの交流の拠点であるということ踏まれば、その中における遠野市の一つのあるべき姿、存在感といったものをそこに示すことができるだろうと。それが基本構想でいうところの遠野スタイル創造・発展というキーワードとして位置づける。創造し、発展させていくんだという中における。で、基本計画の中でそれを150の事業の中に位置づけた中で、一つ一つそれを財政事情をよく見極めながら、急ぐべきこと、それから少し議論を十分踏まえなきゃならないこと、そしてそれを前期5カ年とした部分においては、3年という中においてローリングをしながら、やっぱり時代、あるいは社会情勢、あるいは遠野を取り巻くさまざまな環境といったようなもの

を踏まえながら、随時見直しをしながら、柔軟な発想の中でそれを形を持っていくという中における遠野の一つのあるべき姿をその中で見出していくというのが今般の示した基本総合計画前期5カ年の計画であるということでもありますので、若干抽象的な言い方になったかというように思っておりますけれども、私は柔軟な発想の中で、それぞれの時代背景を踏まえながら、それを市民の皆様のお知恵と、そしてまたさまざまな御協力をいただきながら、形にしていくということが遠野にとっての大事な一つの道しるべをこの基本計画の中で明らかにしたということになるのではないかなというように承知しているところであります。

○議長（新田勝見君） 15番浅沼幸雄君。

〔15番浅沼幸雄君登壇〕

○15番（浅沼幸雄君） 質問自体が目指すことは何かということで抽象的でありますので、答弁もなかなか具体的な答弁は難しいのかなというふうには思います。

平成17年10月に合併して10年、先般10月1日に記念式典が行われたわけなんですけれども、この10年前に策定された総合計画、新市まちづくり計画という言い方をしておったかと思うんですけれども、合併して新市まちづくり計画を実施して10年経過しました。しようとしております。これを受けて、これからの平成28年度からの10年前の基本構想が6月の定例議会で可決されまして、そしてそれを受けて今12月定例会に前期基本計画が出てきたわけなんですけれども、先ほどと似たような質問になるかもしれませんが、この5年間で取り組もうとするのは、具体的に一つ一つの細かいことではなくてもいいんですけれども、市長の考え方が、あるいは思い入れがあるところを確認したいと思っております。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） 今後5年間でという中における一つの計画を具体的に示したという中におきまして、ただいまお話ありましたとおり、

これを一つ一つ形にしていかなきゃならない、そのプログラムとして大綱1から5までという中における一つの柱を建てました。

この中で、この計画をこのような中で議員各位の浅沼議員からもさまざまな御指導なり御助言をいただきましたけれども、それを一つの前期5カ年の基本計画に持ち込んだという中における一つの完成品をその中で成果品——完成品というのは成果品を逆さに言ったわけでありまして、これを形にしていかなきゃなりません。そのために先般、地域開発戦略推進室を11月1日付で立ち上げた。で、地域開発グランドデザインをその中できちっと示そうと。で、その中に人口減少に立ち向かう雇用の場として、あるいは産業振興の場としてのプロジェクト、これはかつてもう2年前から進めております6次産業推進本部といった組織を立ち上げて、組織横断的にそのような、とにかく産業振興を進めてまいりました。

もう一方においては、もう7、8年前からなるわけありますけれども、わらすっこ条例、わらすっこプラン、わらすっこ基金といった中における子育て環境といったことにも、身の丈の中からさまざまチャレンジしてまいりました。それを一つの形にするためには、物づくり、雇用の場というのであれば、やはり企業の受け皿としての工業団地も必要だろうと。

それからもう一方においては子育て環境という抽象的なことを言っても、それはなかなか、やっぱり保護者の方々、あるいは市民の方々、そして何によりも子どもたちのためとなれば、それをどのような形にするのかということになれば、この2つを、それが遠野スタイル創造・発展総合戦略ということになったわけありますから、この総合戦略の中に基づくものの中における形にするために、いろんな他方、あるいは関係機関、さまざまな中における調整、総合調整、そして形に持っていくとなれば、やっぱり組織横断的な専担組織もなければ、形に持っていけないなど。

5カ年といっても、下手すると計画倒れに終

わってしまうなという中から、そうやって一定の危機感の中から、地域開発戦略推進室といったものを立ち上げて、それを形に持っていくということにしたということでございますので、これはこの5年間、それを形にする役割を地域開発戦略室がそれを担うということになるということでございますので、5年間という中における取り組みとなった場合には、ただ手をこまねいていくわけにはいかないので、そのような組織をまず同時に立ち上げたということで御理解をいただければというように思うわけであり

○議長（新田勝見君） 15番浅沼幸雄君。

〔15番浅沼幸雄君登壇〕

○15番（浅沼幸雄君） ただいまの答弁で前期基本計画における共通優先方針、2項目について御説明があったというふうに認識しました。

この雇用の創出、あるいは子育て、これは昨年4月に本部も立ち上げまして、実践を始めておる項目、これを今度の前期基本計画でも共通優先方針として進めているんだという行政の一貫性というのは感じられますし、そのとおりでいいと思います。

ちょっと角度を変えまして、今は前期基本計画についての質問を行っているんですが、昨日の同僚議員の質問で遠野スタイル創造・発展総合戦略との違いは何なのかという質問に対しまして、市長は「違いはない」と。私の認識では、間違っているかもしれませんが、前期基本計画は遠野市内の市の計画だよと。発展総合戦略は、言い方悪いんですけども、国のほうに提出するものなんだというふうに自分なりに考えていたんですが、それが当たっているか当たってないかは別なんですけれども、仮に私が考えているようなもの、発展総合戦略が考えているようなものだとすれば、その基本計画の違いはないとは言いながらも、やはり国のほうに訴える何かがあるんじゃないのかなと。その場合に、いろんな考え方があっていいんですけども、遠野ならではの取り組みというのは、どのように考えておられるのか。言い方かえれ

ば、国のほうに上げてあったときに、遠野としてのインパクトが強く与えられる何か多分考えていると思いますんで、その辺についてのお考えをお願いしたいと思います。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） この一つの向こう10年の遠野のあるべき姿といったようなものを身の丈の中から見出していくという部分におきましては、やっぱり一つの戦略はきちっと持たなければなりません。戦略をきちっと持つということは、やっぱり現状をきちんと分析して、そのような将来の遠野のあるべき姿というのをその中でシミュレーションしながら、そこにマッチングした一つの計画をその中に持ち込まなければならぬ。戦略は戦略、計画は計画。確かにお話ありましたとおり、前期5カ年の基本計画は市民に対しまして、このようなことをやりますよということをお約束したわけですから、これはこれからの、あすからの予算等審査特別委員会でも、この基本計画につきまして御審議をいただくということになっているわけですから、これはひとつこの審議を経て、議会の同意というものを得られれば、文字どおりこれは私にとっても、市長という立場を今こうしていただいている立場からすれば、市民に対する、あるいは議会に対する一つの約束ということになるわけですから、これをきちんと形にもっていかなきゃならないということになるわけがあります。

したがって、この戦略、そしてそれに伴う人口ビジョン、そしてもう一方においては基本計画、これが一体のものとなって、遠野の将来のあるべき姿といったものを市民の皆さんにきちんとお示しをするという中における、今その議論をすべき、この場であるんだということでありますから、それをこの議論を踏まえながら、さらにこれを推進する一つの形に、あるいは組織の見直し等も含めながら対応していかなきゃならない課題が、またその中に見出すことができるんじゃないのかなというように考えている

ところでありますので、人口ビジョン総合戦略、それから基本計画、そしてそれに伴う健全財政5カ年計画、全ての一つのストーリーの中で一体となって今回お示しすることができたということになるのではないかなというように思っております。

○議長（新田勝見君） 15番浅沼幸雄君。

〔15番浅沼幸雄君登壇〕

○15番（浅沼幸雄君） 私、聞き漏らしたかもしれないけれども、その遠野スタイル創造・発展総合戦略の中で、遠野らしさ、遠野ならではのというものがあれば、お聞かせ願いたいということもさっき質問したような。聞き漏らしたかもしれないけれども。もう一回お願いします。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） まさにこの総合戦略においても、キーワードとして遠野らしさ、遠野ならではのものをどのようにわかりやすく市民の皆様にお示しするのか。それは対外的にも県や国にもどのように情報発信をもって示すのかということになれば、やっぱり遠野らしさ遠野ならではのというのがキーワードが非常に重要と。

したがってそれは、やっぱりこれまでさまざまな中で試行錯誤してまいりました6次産業推進本部、あるいは子育てするなら遠野というような2本柱。その中にT P Iというような一つの言葉の中から、市民総参加、さまざまな地域づくり、健康づくり、人づくりといったものの中におけるものとして、目標数値を持った。これがある意味遠野らしさ、遠野ならではの部分の中におけるものとして、組み込むことができたのではないかなというように捉えているところであります。

○議長（新田勝見君） 15番浅沼幸雄君。

〔15番浅沼幸雄君登壇〕

○15番（浅沼幸雄君） 今の答弁の中にもありましたけれども、そのT P I、私も非常に期待をしております。このT P I、この評価の仕方。

今までの行政事業の評価の仕方は仕方でいいと思うんですけども、やはり何を尺度、あるいは目的として評価するのかというのを踏まえますと、やはり市民の幸福度とか、それから納得度とかいうのが非常に大事な尺度になるのかなというふうに考えておりますので、非常にそこに取り組んだということで、まず評価したいなというふうに思っております。

先ほど答弁の中にもございましたけれども、この基本計画、あるいは遠野スタイル創造・発展総合戦略を実施していくときに、必ず裏づけが必要になってきます。裏づけというのは財源なんですけれども、今回基本計画に合わせまして第3次健全財政5カ年計画も示されました。改めてお伺いしますけれども、第3次の健全財政5カ年計画を策定した目的と特徴的なものがあればお示し願いたいと思います。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） これは浅沼議員も重々おわかりなことだというふうに思っているわけでありましてけれども、やはり計画を持つ、そして構想をまとめ、そして結果を持つことは我々行政をあずかるものとするれば、そういったものについては、あるいは仕事としてそういったものを打ち立てる。しかし、やはりそれをきちんと形にするには、やっぱり財源というようなものがきちんと裏づけされていなければ、それを形にできない。思いだけではなかなか形にすることができないとなれば、やっぱり健全財政を、しかしこれもありきたりな言葉でありますし、事例として引き出すというか、持ち込めないかと思うんですけども、借金体制になっては、これはまた孫子の時代までいろんな意味においても負担を強いるということになるわけでありましてから、やっぱり身の丈の中に健全財政を維持しなきゃならないという中で、第3次遠野市健全財政5カ年計画といったようなものを入れるお金、また前期5カ年で出る、投資しなきゃならないお金ということをバランスとりながら、実は今のこの起債の償還ピークも平成29年――

28年が来年ですから29年、これがピークになるんです。その部分をピークをどのように乗り越えながら、そしてまた一方においては合併特例債、これもこの10年間でほぼ計画どおり、本当にこれは私は議員各位の御理解と御協力があったんじゃないかなと思っておりますけれども、ほぼ計画どおり、この10年間で合併特例債を活用しながらの一つのまちづくりという中における合併時の約束をそれぞれきちんと行うことができた。

したがって、合併特例債を新たにというようなどころであっても、合併特例債も、これも幾ら有利な起債だといっても借金に変わりないわけでありますから、これはできるだけそういうことはしないようにしようという中において、そしてまたこの交付税の部分も人口減少ということが、ひとつ交付税、人口がベースになっていますから、今度の国調でもって交付税がまた減ってくるということも、これもある意味では覚悟しながら取り組んでいかなきゃならない。それが身の丈なわけでありますから、その基本計画の中で出る部分と、それからそういったような受けるような合併10年で、国勢調査の新たな人口といったようなものを踏まえての入るお金、そしてまた産業振興なり人口定住なりしながら、市民の皆さんから貴重な税金もいただいている。そのような中におけるこの市税の一つの動向等も見ながら、しかし一方においては高齢化社会となれば、福祉ニーズも、あるいは教育環境の整備もという中におけるお金を環境整備も含めて出ていくお金も出てくるということをやうまくバランスとりながらという中で、ところでその財源はどうなんだという中における一つ一つの数字を積み上げたのが第3次遠野市健全財政5カ年計画だと。それは示した前期5カ年計画の150の事業をどうにかこうにか5年間ではやれるだろうと。まずはそのとおり確実にやる方向で取り組みますよというような決意を健全財政5カ年の計画の中で、市民の皆様、あるいは議会の皆様にもお示しをしたということになるのではないかなというように思っている

ところでございますから、ちょっと長目になりましたけれども、そのような背景を踏まえての答弁とさせていただきます。

○議長（新田勝見君） 15番浅沼幸雄君。

〔15番浅沼幸雄君登壇〕

○15番（浅沼幸雄君） 答弁の中でも国勢調査による人口の話があったわけなんですけれども、平成28年から32年までの前期5カ年計画、歳入見込みが903億6,000万円、5年で割りますとやや年間180億円、当初予算ベースになりますけれども。今までの平成11年から15年の実績——15年は見込みということでございますけれども、その今までの5年間よりも5年間で213億少なくなると。その少なくなる歳入見込みの中で、歳出もいろいろ工夫した計画だとは思いますが、この5カ年計画を立てた時点では、多分まだ国勢調査の数字というのは出てなかったんじゃないかなと思うんですね。で、国勢調査の速報値もまだ正式なものが出てない。でありますけれども、大体のところの数字はつかんでいると思うんですが、それによるその交付税の減額になる可能性というのはあるのでしょうか。わかるのであれば答弁願いたいと思います。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） この国勢調査がこの前終わりました。間もなく速報値が確定するかというように思っております。正直なところ、かなり厳しい数字ということになるのではないかな。この10年間で約3,500人の人口が減ったと。で、これは他の自治体のことをとやかく言う立場ではないわけでありますけれども、一関市も奥州市も1,000人規模で減っている。で、岩手県はとなれば1万人規模で減っているというような、もうそのような人口減少社会なわけでありますから、そういった中における一つの財政運営の中におけるその影響といったようなものをよく考えていかなければならないかというようなこと。

だからやはりどうしても、いうところの有利

な財源という部分における交付金、あるいは交付税、さらには特別交付税なども含めての財源といったものについては、国に頼らざるを得ないというような現状は、そういう現状にあるわけでありまして、ことしの10月1日現在で行った国勢調査では、実は約200人の統計調査員の方に御協力いただきながら、その作業を終えることができたというわけでありまして。

で、多分、先ほど間もなく速報値がということでは、来年2月ごろには数字が確定するということにもなっておりますけれども、今のところ大体2万8,000台は確保できたという——確保できたという言い方は、何とか頑張ったその分は抑えることができたということになるわけでありまして、非常に厳しいという状況にあるわけでありまして。

約、国から75億円ほどの毎年交付税を受けての財政運営でありますから、これがこの国勢調査の数字の結果、さらにまたこの部分が減るといことも前提に立たなければならないかというように考えているところであります。それが、繰り返しになりますけど、先ほど申し上げた健全財政5カ年計画の中では、それらも全て盛り込み済みと言えれば変ですけど、盛り込んだ計画として数字を確認しておりますから、健全財政を維持しながらという部分においては、ある程度それが確認できたということで御理解をいただければというように思うわけでありまして。

○議長（新田勝見君） 15番浅沼幸雄君。

〔15番浅沼幸雄君登壇〕

○15番（浅沼幸雄君） 昨日の答弁の中で、財政運営について市長がこれから綱渡りの場面もあるという意味の答弁をされたったんじゃないかなと私は認識しているんです。そういうのもあったもので、ちょっと心配なところもあるんで、もう一つだけ確認させていただきたいんですけど、私が申すまでもなく、近年当市では大型事業が続いておりますけれども、これによって、先ほど平成29年に地方債というか、借りている債務がピークを迎えるという——返済がですね——ことだったんですけども、その

改めて確認しますが、このぐらい大きな事業が続いてて——金額の大きな事業ですね、この財政規律は大丈夫なのかと、単純に心配するところもあるんですけども、ここのところをひとつ確認したいと思います。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） ただいま大型事業が続く中において、適正な財政規模といったものをどのように維持していくのかという中における御質問というように承りました。財政規律を維持すると、これは本当に大事なことであります。総合計画、その実効性を財政の安定性を保つ中から形に持っていかなきゃならないという部分の中におけるやりくりをさまざまな検討いたしました。

先ほど申し上げました150の基本計画の中で150の事業を位置づけたということでありまして。そのための歳入確保といたしまして、いうところの受益者負担の適正化やあるいは遊休施設の売却なども含めながら、歳入の確保ということで、改めてこの6つの取り組みを行い、5年間で約2億円の財源確保を図るという一つの形を検討いたしました。

それからもう一つ、歳出の抑制ということも、これも極めて大事であります。収支バランスということで、そういうことになれば、歳出の抑制ということも大事でありまして、民営化や——これ民営化といったようなことも一方においてはアウトソーシングでございますね。こういったようなものを進めていかなきゃなりません。人口が減るといことは職員も減るといことにつながるわけでありまして、しかし行政サービスがその分減るかという、人口が減った分、行政サービスが減るかとなれば、逆に行政サービスしなきゃならないのは、より細やかな対応になってきてますから、これは減るといわけには簡単にはいかない。そういった中における一つのアウトソーシングといったようなものを進めなきゃならない。

さらには、無駄という言葉は使いたくないん

ですけれども、この経常的な経費も常に緊張感を持って見直しをしていかなければならないということになるわけでありまして、そのようなひとつ7つの取り組みをその中で展開するということにいたしまして、5年間で約26億円の歳出抑制を努めるという一つの形でシミュレーションいたしましたので、これらの取り組みを進めながら、経常収支の比率、あるいは実質公債比率などの健全化判断指標の管理、あるいは主要3基金の一定額の一つの確保、それから市債残高の計画的な減額といったような、6つの目標と、第3次健全財政5カ年計画の中で、歳入歳出、それから抑制、それらの中における一つのシミュレーションを行いながら、検討しながら進行管理を行って、大型150の基本計画を着実に実施するという方向に持っていきたいというふうに考えているところであります。

○議長（新田勝見君） 15番浅沼幸雄君。

〔15番浅沼幸雄君登壇〕

○15番（浅沼幸雄君） 5年間で歳出も努力して削減すると。非常に頭の下がる思いであります。

昨日の一般質問の中でも、同僚議員からも質問があったんですけども、公共施設の管理計画、今年度末には示すということなんですが、恐らくそれが示されますと、どういうふうに進むにしても、結構予算が変わるんじゃないのかなというふうに思うんです。で、これはしっかり示されてからじゃないと無理かもしれませんけれども、来年度以降の公共施設の管理計画に係る歳出、どの程度加味された今回の計画なのか、ちょっと確認したいと思います。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） ただいま健全財政の部分の中におきまして、これは繰り返しになりますけれども、先ほどの答弁とまた同じことになるとかというように思っておりますけれども、この人口規模、あるいは基本計画の中に位置づけたさまざまなプログラムといったことを踏まえると、遠野のこの財政規模からすれば、最終的

には大体この予算規模とすれば180億円台のところでのどのようにいろんな事業を実施していくかということになってくるのではないのかと。今年度も既に補正予算を受けまして200億円を超えているわけで、やっぱりこれは先ほど質問がありましたとおり、大型事業がその中で位置づけられたことがありますけれども、これらがある程度一段落すれば、180億円規模の中における出資バランスをとりながら財政規模をきちんと確保していけば、この前期5カ年の一つの目標を示した目標は、ひとつ形にすることができるのではないのかな。これはもう本当にこれもこういった場における抽象的なものになりますけど、やっぱり背伸びはしちゃだめだと。やっぱり身の丈の中で市民の皆様にもある意味においては我慢するところは我慢してもらわなきゃならない。

しかし、それを「我慢」という2文字でもってそれを強いるわけにはいかない。そこでやっぱり知恵を出しながら、また一方においては工夫をしながら、またいろんな形で、あるものをいかに利用するかといったような一つのコンセプトの中から、市民ニーズに応じていくということにおける知恵を工夫が問われるということに、ますます問われるということになるのではないのかなというように承知いたしております。

○議長（新田勝見君） 15番浅沼幸雄君。

〔15番浅沼幸雄君登壇〕

○15番（浅沼幸雄君） 今の段階で結局公共施設の管理計画もきちっとしたものが出てない中の答弁とすれば、今市長がおっしゃられたような感じになるのかなというふうに思います。

公共施設に関しましては、これから管理計画が出されて、そして結局簡単に言えば、どの施設がなくなるのか、統廃合になるのかという、総論賛成、各論反対の場面がいっぱい出てくるんじゃないのかなと。

日本は行動経済成長のとき、右肩上がりのときは、いっぱいいっぱい箱物をつくったんです。お金もいっぱいあったんです。そのときに行政に携わっていた方、あるいは首長さんというの

は、結構ある程度は思うように箱物ができた時代。そういうものができるときというのは、市民もある意味、あんまり文句を言う人もいなかったんじゃないのかなと思うんです。

これからは、やっぱりそういうふうには人口減少、あるいは予算が少なくなってくるということに対応するために、公共施設もいろいろとやっつけていかなきゃならない、本当に今市役所の職員、あるいは市の三役は大変な時期に——失礼なんですけれども、やっているのかなというところはあります。

この公共施設の管理計画につきましては、示された後にもっと具体的に詳しく議論したいと思います。

今まで市長からぜひ基本計画、あるいは発展総合戦略、健全財政5カ年計画等につきまして、いろいろと市長のお考えを示していただいたわけなんですけれども、これをこれから実践に移していくと。物事をなすときによく使われる段取り何分——さっき午前中、議員控え室で段取り7分だったか8分だったかって、みんなして議論したんですが、7分じゃないがということで、今回は7分でいきたいと思います。（笑声）物事をなすときに段取り7分（「8分」と呼ぶ者あり）8分。（笑声）まだ議員のほうも固まって——じゃあ7分か8分。いずれですね、かなり比重が高い、段取りが。これいろんな場面ですけれども経験していることだと思いますが、今回この前期基本計画を少しでも実のあるものにするために、市長はどのような段取りが必要だとお考えでしょうか。——済みません、もうちょっと具体的に。

段取り7分と申しますが、市長がこの前期基本計画を進めていく場合、具体的にどのような方法で進めていけば効果的な進め方ができるのかということについてお伺いします。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） これも今般のこの本会議場でも基本計画、あるいは総合戦略、それに伴う健全財政5カ年計画の位置づけ等について、

いろいろ議論が交わされました。

ただいまも浅沼議員のほうからも、このいわれるところの健全財政を維持しながらどのような形でこれを具体化していくのかと、それから市民周知をどのように図っていくのかということも含めていろいろ御質問いただいております。

その中でキーワードとして、ただいま御質問ありましたとおり、段取りという言葉が出てまいりました。これはやはり基本であります。我々行政を預かるものとするれば、どのような一つの中に段取りをしながら、仕組みをひとつ動かしていくかということが極めて大事なわけで、ただかけ声だけでは何ともなりません。気合いだけでも前へは進めません。やっぱり一つの段取りをどのようにしながらということになれば、市民の皆様にもまず一つは、この議会を通じながら、この基本計画の、あるいは総合戦略の、あるいは遠野市の財政事情をまずもってきちんと理解してもらおうということが、まず一つは大事であります。その理解もいただけないような情報も出さないで物を進めるといふわけにはいきません。やはりきちんとその情報を開示し、そしてわかりやすく説明するということによって、遠野の置かれている状況、それから今回示した戦略、計画、それから財政事情をまず理解してもらって、ああなるほどか、そういうことなんだということ踏まえて、じゃあこの部分はちょっと我慢しようとか、いやこのままぜひやっしてほしいとかというような部分を、いうところのバランスをとって公平で、そして公正な一つの業務執行を行っていかなくちゃならないというのが行政の立場なわけでありますから、そのための段取りとすれば、やっぱり私は一番情報の周知、それからさまざまな今遠野の置かれている現状をまずもって市民が一丸となってそれを理解し、またそれを受けとめるという中におけるやっぱりアプローチがまず基本ではないのかな。それがあってこそ、それぞれの計画が理解もし、また若干先送りしたとしても、それをまた理解してもらえんというふうな、そういった循環の中における取り組みが、市民と行政との

中におけるものとしてかみ合ってくるのではないのかなと思うわけでありますので、基本的には情報を、あるいは情報ということは今持っている計画をわかりやすく市民の皆様にご説明を申し上げるということが、まず基本ではないのかなと。

したがって、この本会議場も遠野テレビを通じて市民の皆様にご公開しているという部分も、これも極めて大事な説明の場でもあり、また理解していただく一つの手段として情報公開、議会公開というのも極めて大事な一つのこれも仕組みじゃないのかなというようなことも思ったりしつつございますので、そういった点で御理解いただければというように思います。

○議長（新田勝見君） 15番浅沼幸雄君。

〔15番浅沼幸雄君登壇〕

○15番（浅沼幸雄君） まさに今市長の答弁の中にありました市民に周知して理解していただくと、いいことも悪いことも。大事なことじゃないかなと。

どれの一般質問の答弁だったか、ちょっと忘れたんですが、年明けてから市役所の幹部職員を3班に分けて、そして基本計画を説明して歩くというお話があったんですけども、多分今までにないケースなのかな、あったかもしれませんけれども。

それで、私がちょっと言い過ぎかもしれませんが、確かに市民に対しては市長の答弁でいいと思います。加えて、やっぱり職員に対しても市長からすればわかっているはずだとは思っているかもしれませんが、やっぱりぴしっと、周知だけではなく、周知した上で職員にも理解してもらおうと。言い方変えれば、市民の中に職員の中に本田市長を何人つくるわということで、今回の基本計画の成否が決まるんじゃないかなというふうに思っているんですけども、その辺のところをお伺いして、多分終わりにしたいと思います。（笑声）

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） ただいま御質問の中に

ありましたとおり、やはり市民の皆様にご周知をするということが基本だと、今浅沼議員のご認識も示されたと。全く私もそのような基本を大事にして取り組んでいきたいというふうに思っております。

ちなみに、今具体的に担当のほうに指示しておりますけれども、今議会が終わりましたならば、年明けになるというふうに思っておりますけれども、市内11カ所に庁議メンバーの幹部が3班編成で出向きまして、基本計画、総合戦略、さらには健全財政5カ年計画といったものを市民の皆様にごフェイス・トゥー・フェイスの中からわかりやすく説明をします。それから遠野テレビを通じての市民周知も図る。あるいは印刷媒体としての遠野広報も通じて市民周知を図るという中におけるかみ合わせると、相互にかみ合うという中における一つの働きかけを積極的に行っていきたいと。

やっぱり何度も繰り返しますけども、情報を我々が持っていればいい。計画も立てた。そして議会の同意もいただいたから、それで一見終わりじゃなくて、まさにそれが始まりだというような、そのようないい意味での緊張感を持って、これからは職員ともども市民の皆様への周知、そしてともにこの計画を確実に皆さん形にしていきたいと思いますという中における呼びかけも市民の皆様に行っていきたいというように考えているところでございますので、それを愚直に繰り返すことによって、遠野が市民協働という仕組みがしっかりと機能しているんだなということをご皆で感じ取れば、この厳しい人口減少、あるいは財政難も何とか遠野の身の丈の中で乗り越えるという一つの結果を見出すことができるんじゃないかなというふうに思っておりますから、その強い決意で、その方向で取り組んでまいりたいというふうに考えているところであります。

○15番（浅沼幸雄君） これで私の一般質問を終わります。

○議長（新田勝見君） これにて一般質問を終了いたします。

休会の議決

○議長（新田勝見君） お諮りいたします。12月9日から10日までの2日間は委員会審査のため休会いたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（新田勝見君） 御異議なしと認めます。よって、12月9日から10日までの2日間は休会することに決しました。

散 会

○議長（新田勝見君） 以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。御苦勞さまでした。

午後2時05分 散会

